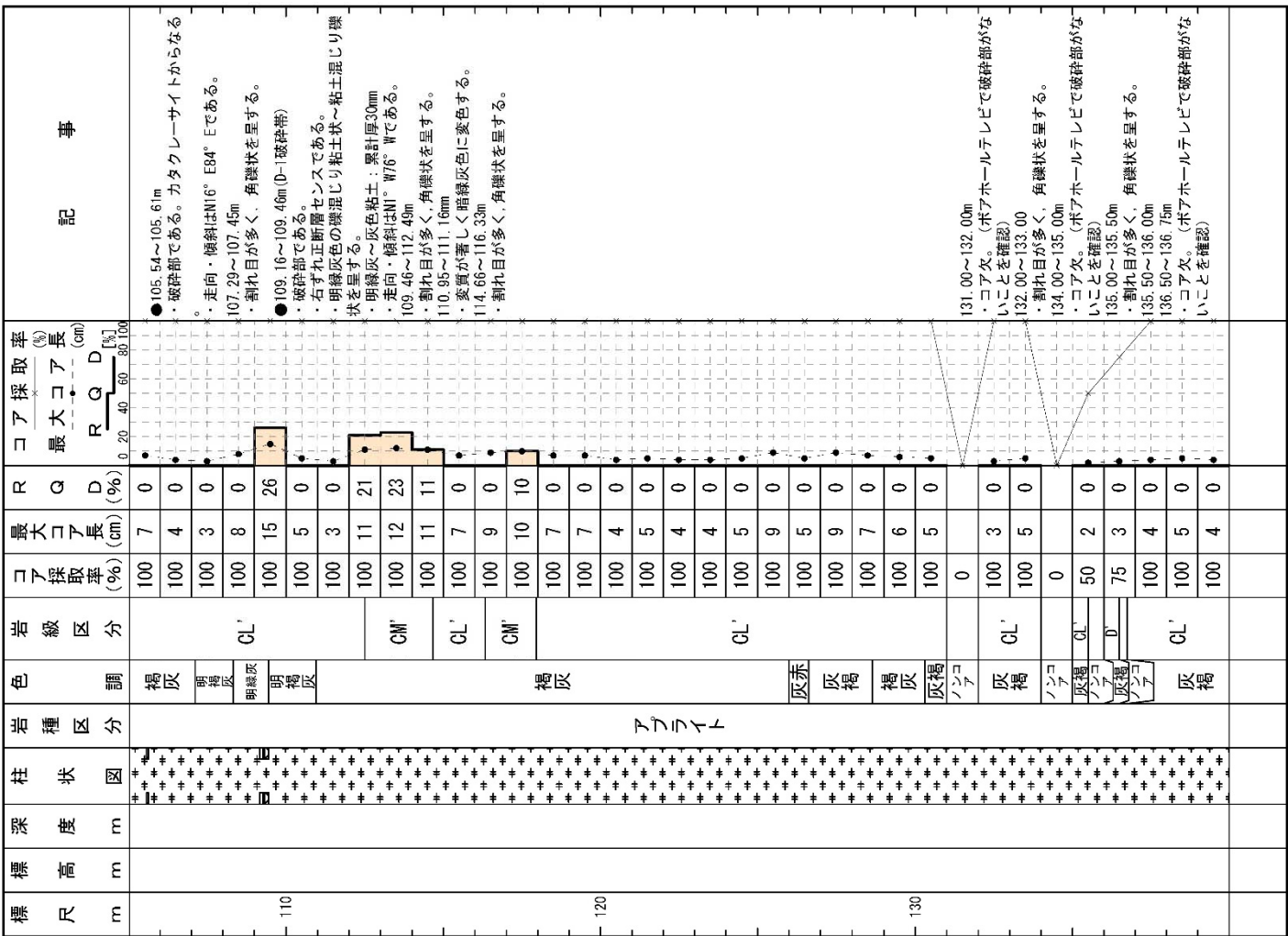


孔口標高	I.P.	掘削長	150.00m

第7.4.4.177図 (1) D-1破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)



第7.4.4.177図 (4) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

H24-D1-1

孔 口 標 高	I.P.	掘 削 長	100.00m
---------	------	-------	---------

標 尺	標 高	深 度	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	コ ア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コ ア 採 取 率 (%)	コ ア 長 (cm)	記 事
							100							0.00~4.33m ・埋土である。
	17.19	4.33		埋土	にふい黄橙		100							4.33~5.05m ・砂礫である。
	16.68	5.05		砂礫	にふい黄橙		100							・径5~30mmの花崗斑岩の硬質礫を含む。
	16.40	5.45		砂	にふい黄橙		100							5.05~5.45m ・砂である。
	15.71	6.33		砂	にふい黄橙		100							・径1~3mmの石英を多く含む。
	15.39	6.33		砂	にふい黄橙		100							・径1~3mmの石英を多く含む。
	15.39	6.33		砂	にふい黄橙		100							・径30~280mmの垂角礫からなる。
	13.55	9.48		砂礫	にふい黄橙		100							・礫は径2~80mmの垂円~垂角礫を含み基質は中粒~粗粒砂からなる。
10	13.00	10.25		砂	にふい黄橙		100							・シルト混じり砂である。
	12.47	11.00		砂	にふい黄橙		100							・砂である。
	11.62	12.20		砂礫	にふい黄橙		100							・石英や花崗斑岩礫が点在する。
							100	7	0					・砂礫である。
							100	4	0					・礫は径2~70mmの石英、垂円~垂角礫からなる。
							100	8	0					10.25~11.00m ・砂である。
							100	6	0					・不均質に粘土分や有機物を含む。
							100	9	0					11.00~12.20m ・砂礫である。
							100	5	0					・礫は径2~160mmの垂円~垂角礫を含む。
							100	4	0					・礫率40~50%程度。
20							100	3	0					12.20~100.00m ・花崗斑岩である。
							100	6	0					12.20~21.04m ・風化部である。
							100	7	0					21.04~30.53m ・割れ目が多く、短柱状を呈する。
							100	12	12					32.38~42.23m ・割れ目が多く、砂~短柱状を呈する。
							100	11	11					
							100	6	0					
							100	5	0					
							100	7	0					
							100	2	0					
							100	16	16					
							100	4	0					
							100	17	17					
							100	6	0					
							100	22	22					
							100	9	0					
							100	9	0					
							100	5	0					
							100	4	0					
							100	10	10					
							100	4	0					
							100	5	0					

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	コア長 (cm)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	採取率 (%)	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	記事																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
50			+	花崗斑岩	明褐色	CL'	100	15	27	0	0	0	0	0	0	0	● 45. 91° ~ 48. 28m ・ 破砕部である。カタクレサイトからなる。 ・ 明褐色～明黄褐色の燻じり粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・ にぶい赤橙～明黄褐～にぶい黄褐色粘土。累計厚34mm ・ 走向・傾斜はN11° E58° Wである。 ● 49. 20° ~ 49. 91m ・ 破砕部である。 ・ 正断層センスである。 ・ 明褐色～明黄褐色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・ 明褐色～明黄褐色粘土；累計厚10mm。 ・ 走向・傾斜はN9° W74° Eである。 ● 53. 77° ~ 54. 54m ・ 破砕部である。 ・ 正断層センスである。 ・ にぶい橙～にぶい黄橙～灰黄色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・ にぶい黄褐～淡黄橙～黄褐～浅黄褐色粘土；累計厚52mm ・ 走向・傾斜はN20° E77° Eである。 ● 58. 96° ~ 59. 30m ・ 破砕部である。 ・ 明褐色～淡黄～浅黄褐色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・ 明赤灰～褐灰～にぶい橙褐色粘土；累計厚30mm ・ 走向・傾斜はN8° E78° Wである。 ● 60. 12° ~ 60. 15m (D-I破砕帯) ・ 破砕部である。 ・ 正断層センスである ・ 浅黄橙～にぶい黄褐色の燻じり粘土状を呈する。 ・ 浅黄橙～にぶい黄褐色粘土；累計厚23mm ・ 走向・傾斜はN9° E88° Wである。 ● 68. 84° ~ 69. 00m ・ 破砕部である。カタクレサイトからなる。 ・ 浅黄橙～灰白色の粘土状～機質粘土状を呈する。 ・ にぶい黄橙～暗褐色粘土；累計厚16mm ・ 走向・傾斜はN31° W72° NEである。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
																		60			明褐色	CL'	100	15	27	0	0	0	0	0	0	0	● 78. 77° ~ 79. 19m ・ 破砕部である。カタクレサイトからなる。 ・ 明オリブ灰～赤灰色の燻じり粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・ 灰赤色粘土；累計厚3mm ・ 走向・傾斜はN4° E78° Eである。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
																																		70			明褐色	CL'	100	15	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
					灰褐		100	3	0					80.08～81.00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●81.20～81.42m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 にふい黄橙～浅黄橙色の粘土状～礫質粘土 状を呈する。 ・灰赤～淡赤褐色粘土：累計厚4mm ・走向・傾斜はN29° W79° Wである。
					にふい 黄橙		100	5	0					81.20～81.42m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 にふい黄橙～浅黄橙色の粘土状～礫質粘土 状を呈する。 ・灰赤～淡赤褐色粘土：累計厚4mm ・走向・傾斜はN29° W79° Wである。
					灰褐	CL'	100	6	0					81.20～81.42m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 にふい黄橙～浅黄橙色の粘土状～礫質粘土 状を呈する。 ・灰赤～淡赤褐色粘土：累計厚4mm ・走向・傾斜はN29° W79° Wである。
					灰褐		100	6	0					81.20～81.42m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 にふい黄橙～浅黄橙色の粘土状～礫質粘土 状を呈する。 ・灰赤～淡赤褐色粘土：累計厚4mm ・走向・傾斜はN29° W79° Wである。
					灰褐		100	8	0					81.20～81.42m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 にふい黄橙～浅黄橙色の粘土状～礫質粘土 状を呈する。 ・灰赤～淡赤褐色粘土：累計厚4mm ・走向・傾斜はN29° W79° Wである。
					灰褐		100	9	0					81.20～81.42m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 にふい黄橙～浅黄橙色の粘土状～礫質粘土 状を呈する。 ・灰赤～淡赤褐色粘土：累計厚4mm ・走向・傾斜はN29° W79° Wである。
					にふい 黄橙	D'	100	11	11					87.14～88.35m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
					灰褐	CL'	100	6	0					87.14～88.35m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
					灰	D'	100	4	0					89.91～89.95m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・明赤灰色の礫混じり粘土状を呈する。 ・明赤灰色粘土：累計厚35mm ・走向・傾斜はN22° W80° Eである。 ●90.26～90.84m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる 。にふい黄橙～灰白色の粘土状～粘土混じり 礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN53° W80° NEである。 ●91.26～91.52m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる 。にふい黄橙～浅黄橙色の粘土状～粘土混じ り礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚15mm ・走向・傾斜はN31° E83° SEである。 ●93.12～93.24m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる 。灰黄～灰白～にふい黄橙色の粘土状～礫質 粘土状を呈する。 ・灰赤～明赤灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN11° E83° Eである。 95.23～99.46m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●99.68～99.71m ・破砕部である。 ・正断層センスが推定される。 ・灰白～にふい黄橙色の礫混り粘土状～礫質 粘土状を呈する。 ・灰赤～にふい黄褐色粘土：累計厚8mm ・傾斜は65° である。
					灰褐	CL'	100	3	0					89.91～89.95m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・明赤灰色の礫混じり粘土状を呈する。 ・明赤灰色粘土：累計厚35mm ・走向・傾斜はN22° W80° Eである。 ●90.26～90.84m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる 。にふい黄橙～灰白色の粘土状～粘土混じり 礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN53° W80° NEである。 ●91.26～91.52m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる 。にふい黄橙～浅黄橙色の粘土状～粘土混じ り礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚15mm ・走向・傾斜はN31° E83° SEである。 ●93.12～93.24m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる 。灰黄～灰白～にふい黄橙色の粘土状～礫質 粘土状を呈する。 ・灰赤～明赤灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN11° E83° Eである。 95.23～99.46m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●99.68～99.71m ・破砕部である。 ・正断層センスが推定される。 ・灰白～にふい黄橙色の礫混り粘土状～礫質 粘土状を呈する。 ・灰赤～にふい黄褐色粘土：累計厚8mm ・傾斜は65° である。
					灰褐		100	4	0					89.91～89.95m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・明赤灰色の礫混じり粘土状を呈する。 ・明赤灰色粘土：累計厚35mm ・走向・傾斜はN22° W80° Eである。 ●90.26～90.84m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる 。にふい黄橙～灰白色の粘土状～粘土混じり 礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN53° W80° NEである。 ●91.26～91.52m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる 。にふい黄橙～浅黄橙色の粘土状～粘土混じ り礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚15mm ・走向・傾斜はN31° E83° SEである。 ●93.12～93.24m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる 。灰黄～灰白～にふい黄橙色の粘土状～礫質 粘土状を呈する。 ・灰赤～明赤灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN11° E83° Eである。 95.23～99.46m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●99.68～99.71m ・破砕部である。 ・正断層センスが推定される。 ・灰白～にふい黄橙色の礫混り粘土状～礫質 粘土状を呈する。 ・灰赤～にふい黄褐色粘土：累計厚8mm ・傾斜は65° である。
					灰褐		100	5	0					89.91～89.95m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・明赤灰色の礫混じり粘土状を呈する。 ・明赤灰色粘土：累計厚35mm ・走向・傾斜はN22° W80° Eである。 ●90.26～90.84m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる 。にふい黄橙～灰白色の粘土状～粘土混じり 礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN53° W80° NEである。 ●91.26～91.52m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる 。にふい黄橙～浅黄橙色の粘土状～粘土混じ り礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚15mm ・走向・傾斜はN31° E83° SEである。 ●93.12～93.24m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる 。灰黄～灰白～にふい黄橙色の粘土状～礫質 粘土状を呈する。 ・灰赤～明赤灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN11° E83° Eである。 95.23～99.46m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●99.68～99.71m ・破砕部である。 ・正断層センスが推定される。 ・灰白～にふい黄橙色の礫混り粘土状～礫質 粘土状を呈する。 ・灰赤～にふい黄褐色粘土：累計厚8mm ・傾斜は65° である。

H27-B-1

孔 口 標 高	I.P.	掘 削 長	140.00m
---------	------	-------	---------

標 尺	標 高	深 度	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ー ス 採 取 率 (%)	最 大 コ ー ス 長 (cm)	R Q D	コ ー ス 採 取 率 (%)	最 大 コ ー ス 長 (cm)	記 事
				盛土	にぶい黄褐色		100					0.00~4.10m ・盛土である。
	17.32	4.10		砂	明褐色		100					4.10~4.30m ・砂礫である。
	15.41	6.00		砂	灰褐色		100					4.30~4.65m ・礫混じり砂である。
	15.16	9.15		砂	明褐色		100					4.65~6.80m ・砂礫である。
	14.14	8.60		砂	明褐色		100					6.80~7.15m ・最大径200mmの礫を含む。
10				砂	明褐色		100					7.15~7.30m ・礫混じり砂である。
				砂	明褐色		100					7.30~8.60m ・有機質土である。
				砂	明褐色		100					8.60~12.10m ・分解途中の有機物を多く含む。
	11.38	12.49		砂	明褐色		100					12.10~12.49m ・礫混じり砂である。
				砂	明褐色		100					12.49~94.07m ・砂礫である。
				砂	明褐色		100					94.07~12.48m ・一部有機質土の薄層を挟む。
				砂	明褐色		100					12.48~14.84m ・砂である。
				砂	明褐色		100					14.84~17.44m ・少量のくさり礫を含む。
				砂	明褐色		100					17.44~21.16m ・花崗斑岩である。
				砂	明褐色		100					21.16~22.01m ・強風化部である。
				砂	明褐色		100					22.01~23.05m ・土砂状を呈するが、炭組織は残っている。
				砂	明褐色		100					23.05~24.44m ・灰白色の粘土脈を挟み、脆弱である。
				砂	明褐色		100					24.44~27.10m ・割れ目沿いに、幅10~40mm砂状化している。
				砂	明褐色		100					27.10~27.60m ・砂礫状を呈する。
				砂	明褐色		100					27.60~28.84m ・砂礫状を呈する。
				砂	明褐色		100					28.84~31.05m ・割れ目沿いに幅20mm砂状化している。
				砂	明褐色		100					31.05~31.70m ・変質し、白色粘土化している。
				砂	明褐色		100					31.70~33.40m ・割れ目沿いに砂状化し、砂混じり岩片状を呈する。
				砂	明褐色		100					33.40~34.54m ・割れ目沿いに幅20mm砂状化している。
				砂	明褐色		100					34.54~35.37m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。
				砂	明褐色		100					35.37~37.80m ・にぶい黄褐色の粘土混り角礫状を呈する。
				砂	明褐色		100					37.80~40.32m ・灰黄褐色砂混じり粘土；累計厚4mm ・走向・傾斜はN25° E46° Wである。
				砂	明褐色		100					40.32~42.77m ・傾斜は11°である。
				砂	明褐色		100					42.77~44.32m ・上盤境界の傾斜は10°~40°、下盤境界の傾斜は11°である。
				砂	明褐色		100					44.32~47.80m ・著しく軟質化している。
				砂	明褐色		100					47.80~50.32m ・割れ目沿いに、幅10~20mm砂状化している。
				砂	明褐色		100					50.32~54.32m ・砂礫状を呈する。

H27-B-2

孔口標高	T.P.	掘削長	160.00m
------	------	-----	---------

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長(cm)	コア採取率(%)	R	Q	D	最大コア長(cm)	コア採取率(%)	記事								
10	19.62	0.70		コンクリート	灰黄褐		100						100					0.00~0.70m	・コンクリートである。								
				盛土				100						100					0.70~12.33m	・盛土である。							
					盛土				100						100					12.33~12.75m	・砂礫である。						
						盛土				100						100					12.75~13.53m	・最大径200mmの礫を含む。					
							盛土				100						100					13.53~133.75m	・礫混じり砂である。				
								盛土				100						100					13.75~19.80m	・花崗現岩である。			
									盛土				100						100					19.80~21.79m	・10mm程度の間隔で、割れ目が分布する。		
										盛土				100						100					21.79~26.82m	・割れ目沿いに砂状化している部分が多い。	
											盛土				100						100					26.82~28.02m	・割れ目が多く、岩片～礫状を呈する。
												盛土				100						100					28.02~31.15m
		花崗斑岩													100						100					31.15~31.60m	・正断層センスである。
			花崗斑岩												100						100					31.60~43°	・灰黄色の砂混じり粘土状～明赤灰色の礫質粘土状～にぶい黄褐色～にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。
				花崗斑岩											100						100					43°	・灰黄色砂混じり粘土：累計厚10mm
					花崗斑岩										100						100						・走向・傾斜はN7°78°Wである。
						花崗斑岩									100						100						・傾斜は38°である。
							花崗斑岩								100						100						・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は43°である。
								花崗斑岩							100						100						・破砕部である。
									花崗斑岩						100						100						・黒褐色粘土：6mm
										花崗斑岩					100						100						・走向・傾斜はN14°Wである。
											花崗斑岩				100						100						・傾斜は13°である。
		花崗斑岩													100						100						・上盤境界の傾斜は13°、下盤境界の傾斜は20°である。
			花崗斑岩												100						100						・破砕部である。
				花崗斑岩											100						100						・灰白～灰褐色の粘土状～灰黄～褐灰色の粘土混じり礫状～粘土質礫状を呈する。
					花崗斑岩										100						100						・灰白～灰褐色粘土：15mm
						花崗斑岩									100						100						・走向・傾斜はN69°E79°Wである。
							花崗斑岩								100						100						・傾斜は47°である。
								花崗斑岩							100						100						・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は20°～35°である。
									花崗斑岩						100						100						・破砕部である。
										花崗斑岩					100						100						・灰黄色の粘土状～淡黄色の礫質粘土状～明褐色の粘土質礫状を呈する。
											花崗斑岩				100						100						・灰黄褐色粘土：2mm
		花崗斑岩													100						100						・傾斜は12°である。
			花崗斑岩												100						100						・上盤境界の傾斜は27°、下盤境界の傾斜は12°である。
				花崗斑岩											100						100						・破砕部である。
					花崗斑岩										100						100						・灰オリーブ色の粘土状～灰白色の礫質粘土状を呈する。
						花崗斑岩									100						100						・灰オリーブ色粘土：5mm
							花崗斑岩								100						100						・走向・傾斜はN4°E86°Wである。
								花崗斑岩							100						100						・傾斜は35°である。
									花崗斑岩						100						100						・上盤境界の傾斜は35°、下盤境界の傾斜は45°である。

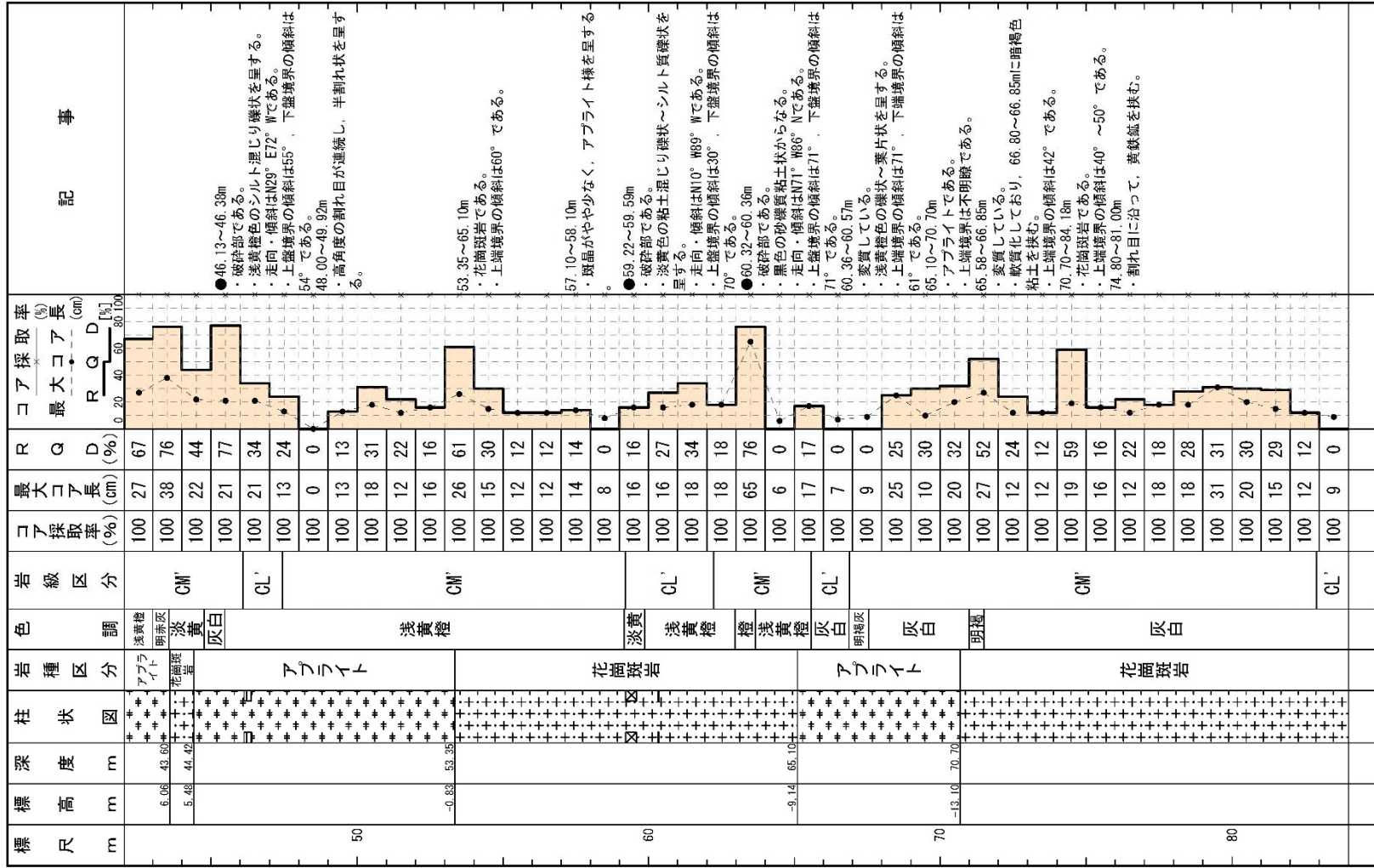
第7.4.4.180図 (2) D-1破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H27-B-2孔)

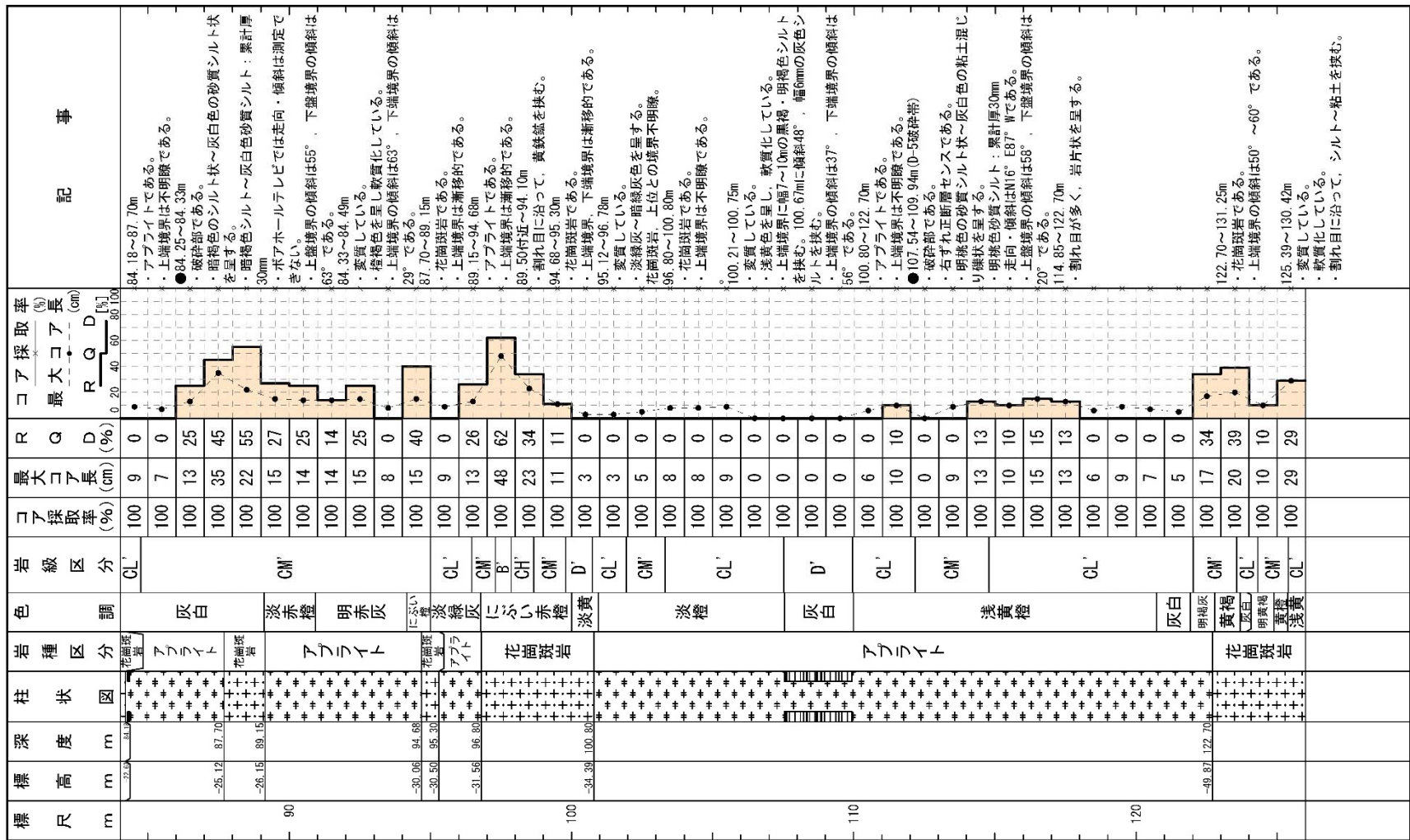
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
					灰褐色 にふい 緑	D'	100	2	0					● 91.69～91.76m ・ 破砕部である。 ・ 右ずれセンスである。 ・ 明褐色～灰褐色の粘土状～灰白色の硬質粘土状～にふい褐色の粘土混じり礫状を呈する。
					にふい 橙	CL'	100	5	0					・ 明褐色～灰褐色の粘土混じり礫状を呈する。
						CH'	100	12	12					・ 明褐色～灰褐色粘土：累計厚8mm ・ 走向・傾斜はN5°W62Wである。 ・ 傾斜は51°である。 ・ 上盤境界の傾斜は51°、下盤境界の傾斜は45°である。
					緑 灰	CM'	100	7	0					94.80～97.96m ・ 硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
						CL'	100	11	11					98.48～101.31m ・ 割れ目沿いに、砂状化している。 ・ 長石は概ね白濁化している。
						CM'	100	6	0					
					灰褐色 明褐色	CL'	100	4	0					102.94～103.17m ・ 割れ目沿いに、砂状化している。
						CM'	100	5	0					
						CL'	100	14	24					104.65～115.99m ・ 硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
						CL'	100	17	17					
					灰 褐色	CM'	100	14	14					107.15～107.62m ・ 割れ目沿いに、一部細片化している。
						CL'	100	6	0					
						CM'	100	5	0					108.57～108.60m ・ 割れ目沿いに、砂状化している。
						CM'	100	9	0					
						CL'	100	11	11					
						CM'	100	4	0					
						CL'	100	9	0					113.63～113.81m ・ 密着した割れ目が、間隔6～10mmで分布する。
					緑 灰 にふい 橙	CL'	100	9	0					
						CL'	100	8	0					115.99～116.49m ・ 割れ目が多く、岩片状を呈する。
					灰 褐色	CM'	100	8	0					116.49～119.47m ・ 硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
					明褐色 灰褐色	CL'	100	6	0					・ 割れ目沿いに、一部砂状化している。
						CL'	100	5	0					

H19-No. 4

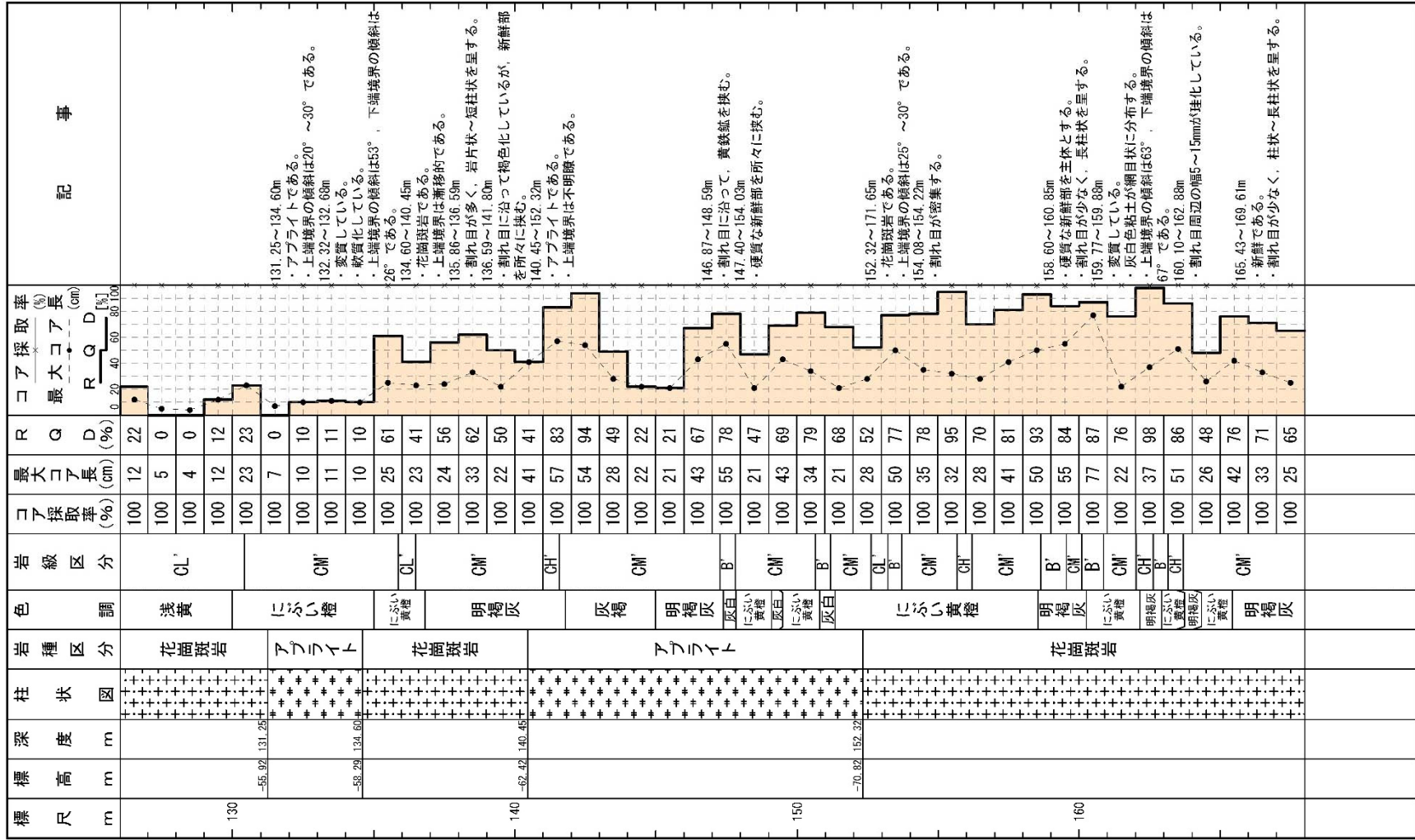
孔口標高	I.P.	掘削長	250.00m
------	------	-----	---------

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記 事
	36.26	0.90	表土	表土	黄橙		100							0.00~0.90m ・表土である。 ・0.90~1.49m ・礫混じり砂質シルトである。 ・礫径は10~30mm程度である。 ・1.49~23.83m ・アブライトである。 ・珪島を比較的多く含み(0.5~1%程度)やや花崗斑岩に近い。 ・2.86~3.40m ・高角度の割れ目沿いに粘土を挟む。 ・4.90~4.92m ・幅15mmの明褐色砂質シルト(流入粘土)を挟む。
10	35.34	1.49	表土	表土	黄橙		100	12	24					●10.48~11.53m ・破砕部である。 ・暗褐色のシルト混じり砂質シルト状~灰白~淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。 ・暗褐色のシルト~砂質シルト:累計厚77mm ・走向・傾斜はN34° W72° Wである。 ・上盤境界の傾斜は40°、下盤境界は不明瞭である。
			アブライト	アブライト	淡橙	CL'	100	10	20					●16.11~16.32m ・破砕部である。 ・淡黄色のシルト混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN35° E62° Wである。 ・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は57°である。 ・16.32~22.08m ・割れ目に沿って褐色化している。 ・20.00~20.20m ・ベグマタイトを挟む。 ・22.08~22.26m ・変質している。 ・軟質化している。 ・上盤境界の傾斜は18°、下盤境界の傾斜は40°である。 ・23.83~30.00m ・花崗斑岩である。 ・上盤境界は不明瞭である。 ・25.00~26.42m ・密着した割れ目が多い。 ・軟質化している。 ・28.25~28.80m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。 ・28.80~34.24m ・割れ目に沿って褐色化し、一部に砂を挟む。 ・30.00~34.25m ・アブライトである。 ・上盤境界は不明瞭である。
20	20.04	23.83	花崗斑岩	花崗斑岩	淡黄	CL'	100	8	0					34.24~34.38m ・変質している。 ・砂状を呈する。下盤境界に幅3mmの灰褐~灰白色シルトを挟む。 ・上盤境界の傾斜は68°、下盤境界の傾斜は56°である。 ・34.25~38.45m ・花崗斑岩である。 ・上盤境界の傾斜は68°である。 ・38.46~43.60m ・アブライトである。 ・上盤境界は不明瞭である。 ・38.86~38.89m ・幅20~25mmの石英脈を挟む。 ・41.19~41.70m ・傾斜50~60°の割れ目が多い。
30	15.68	30.00	アブライト	アブライト	灰白	CL'	100	5	0					
	12.67	34.25	花崗斑岩	花崗斑岩	赤灰	CM'	100	16	16					
40	9.70	38.45	アブライト	アブライト	淡橙	CL'	100	45	45					
			アブライト	アブライト	淡黄	CL'	100	31	79					
			アブライト	アブライト	淡黄	CL'	100	22	52					
			アブライト	アブライト	淡黄	CL'	100	20	74					
			アブライト	アブライト	淡黄	CL'	100	22	64					
			アブライト	アブライト	淡黄	CL'	100	21	34					

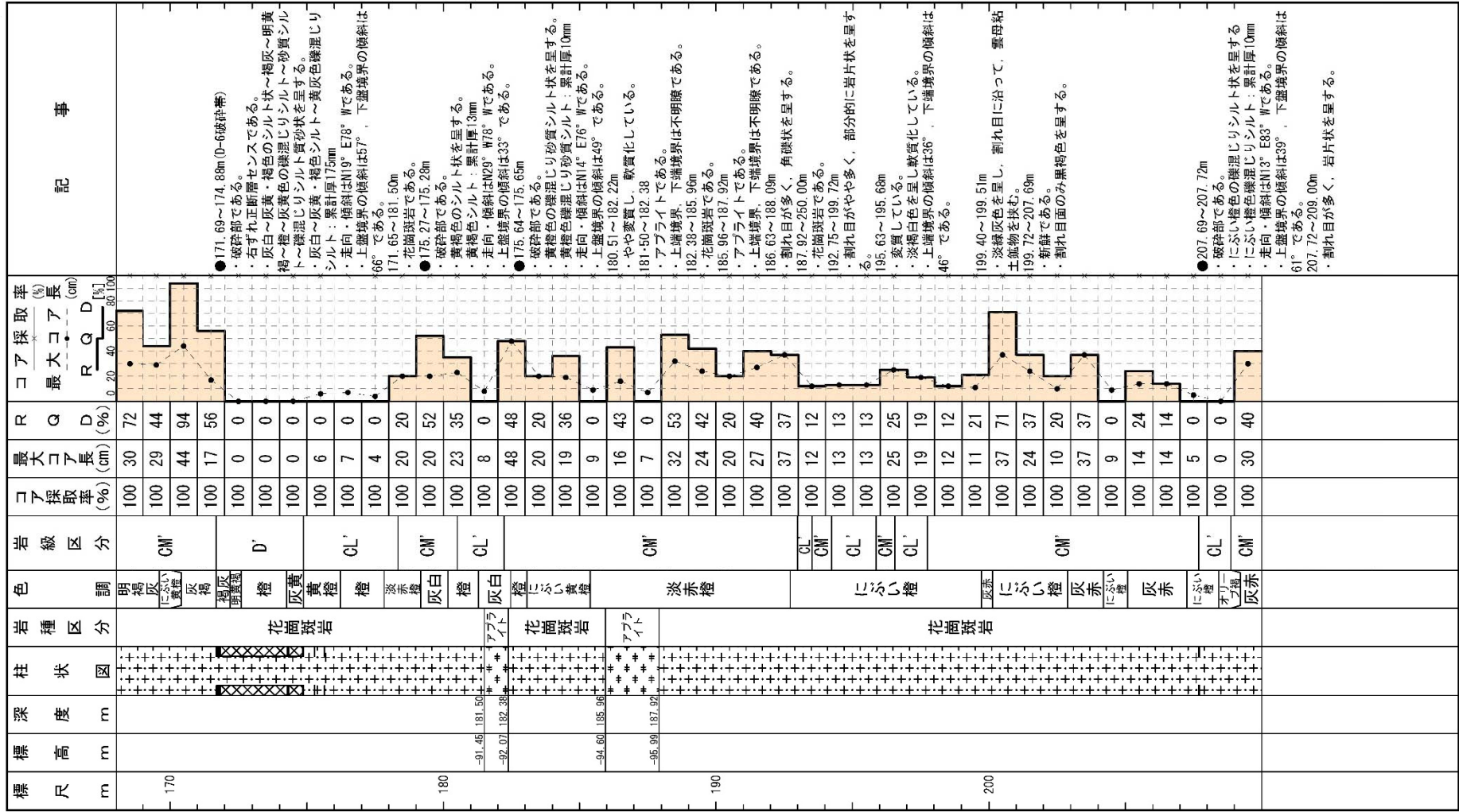




第7.4.4.181図 (3) D-6 破砕帯及びD-5 破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 4)



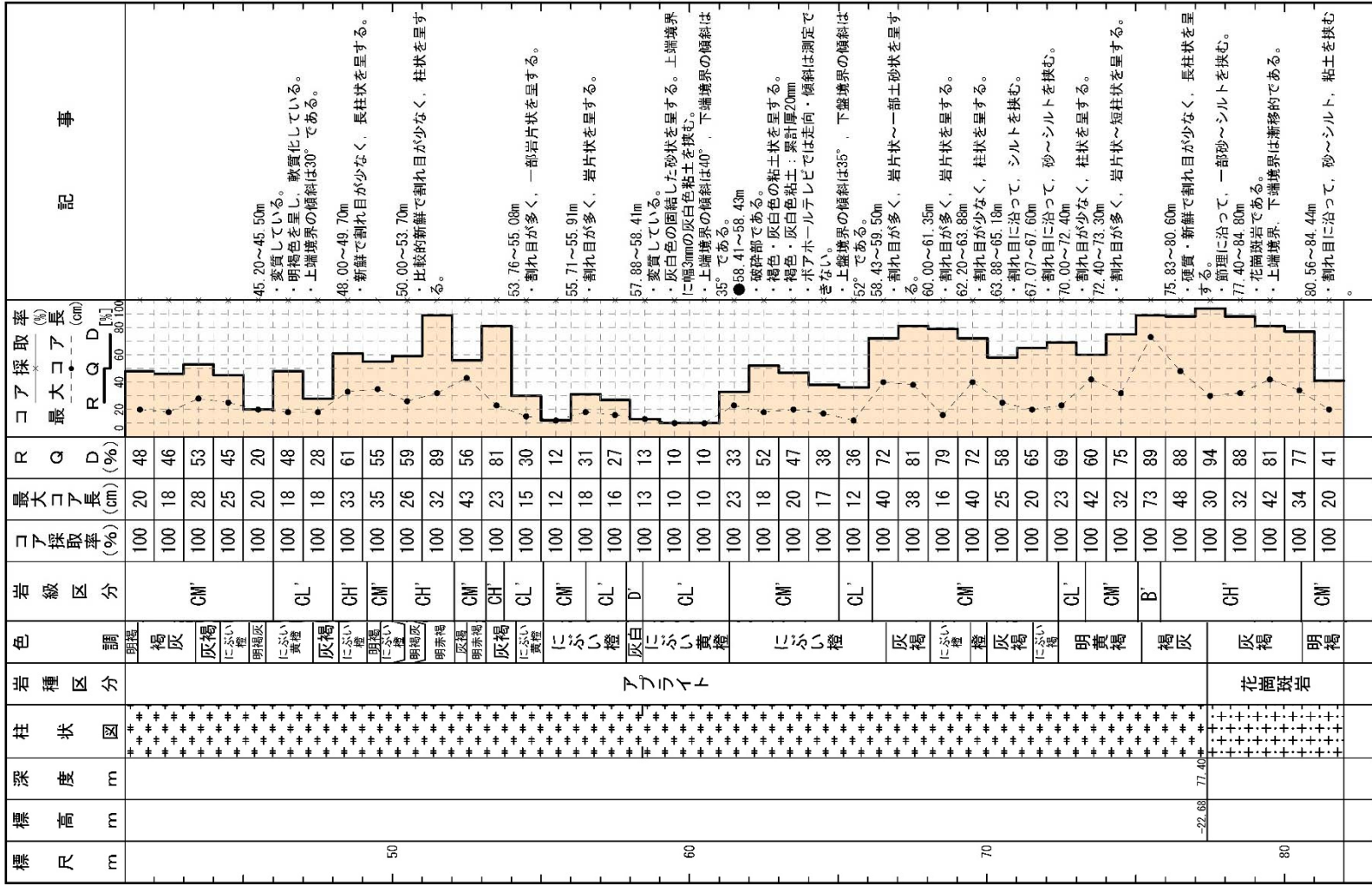
第7.4.4.181図 (4) D-6 破砕帯及びD-5 破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 4)

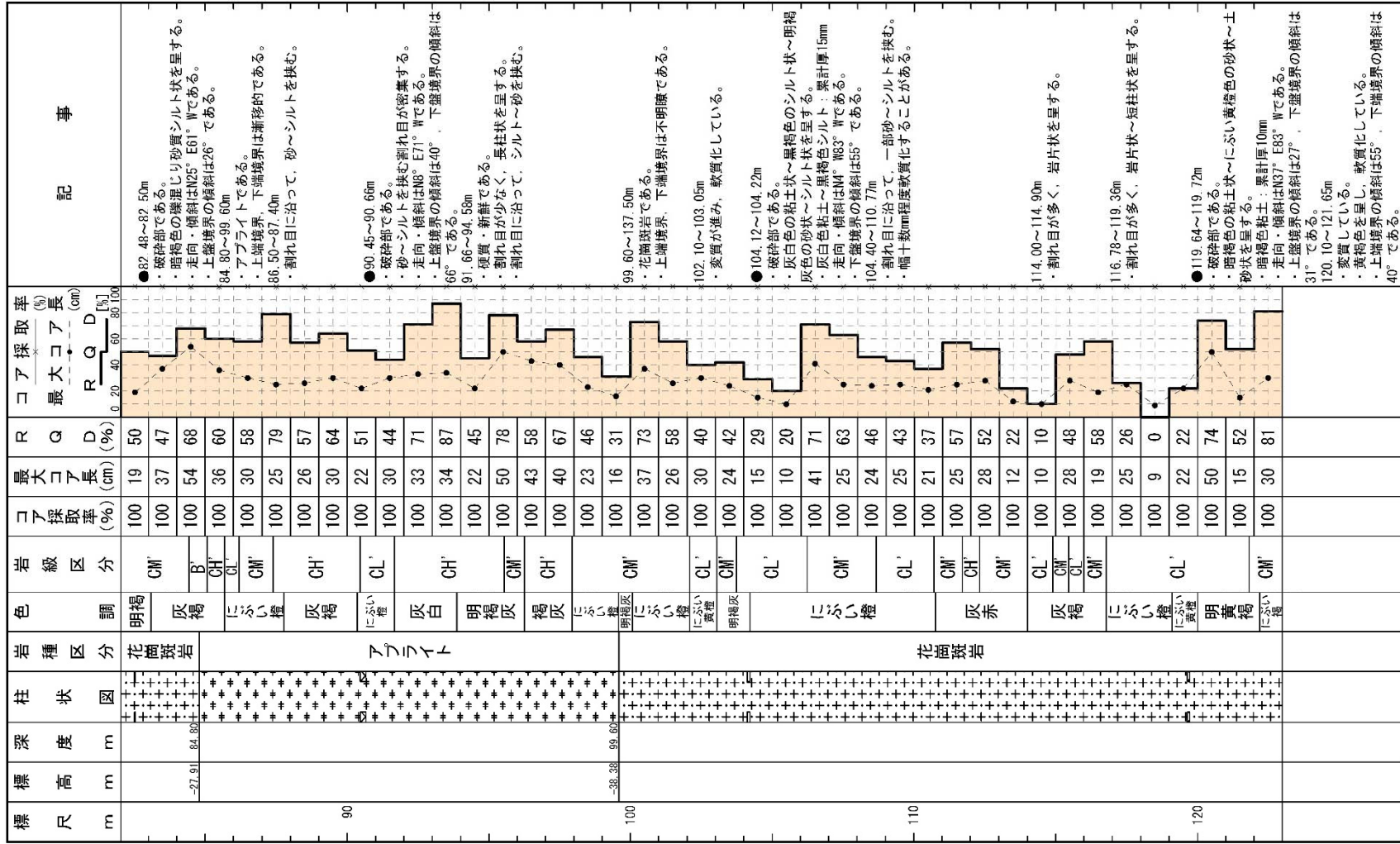


第7.4.4.181図 (5) D-6 破砕帯及びD-5 破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 4)

孔口標高	I.P.	掘削長	250.00m
------	------	-----	---------

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD (%)	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
		m										
				盛土	原色		100					0.00~3.18m ・盛土である。 ・硬湿じりシルト質砂からなる。
	29.80	3.18		素土	黄褐		100					
	29.36	3.80		硬湿じりシルト質砂	黄褐		100					
	28.48	5.05		アプライト	明褐	D'	100					3.18~3.80m ・表土である。 ・硬湿じり有機質砂質シルトからなる。
	27.36	6.63		花崗斑岩	にぶい黄橙	CL'	100	23	35			3.80~5.05m ・硬湿じりシルト質砂である。 ・礫は径5~20mmの重円礫で、一部くさり礫を含む。
	26.09	8.43		アプライト	にぶい黄橙	D'	100	0	0			5.05~7.40m ・アプライトが主体である。 ・厚さ1800mm程度の花崗斑岩と厚さ数十mm程度のペグマタイトを挟む。
10				アプライト	橙黄褐	CM'	100	27	50			7.40~8.43m ・花崗斑岩である。 ・上端境界、下端境界は不明瞭である。
	23.76	11.81		ペグマタイト	にぶい黄橙	CL'	100	15	28			8.43~9.05m ・強風化部である。 ・土砂状~岩片状を呈する。
	22.45	13.57		アプライト	明褐	CM'	100	16	28			9.05~9.95m ・強風化部である。 ・土砂状~岩片状を呈する。
	21.94	14.06		ペグマタイト	にぶい黄橙	CL'	100	14	14			9.95~11.81m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
				アプライト	明褐	CL'	100	28	28			11.81~13.57m ・ペグマタイトである。
				アプライト	明褐	CL'	100	10	30			13.57~16.50m ・ペグマタイトである。 ・割れ目が少なく、柱状を呈する。
				アプライト	明褐	CL'	100	32	32			16.50~17.10m ・軟質で、土砂状を呈する。
				アプライト	明褐	CL'	100	21	56			17.10~17.27m ・ペグマタイトである。
				アプライト	明褐	CL'	100	14	36			17.27~19.40m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。
				アプライト	明褐	CL'	100	20	55			
				アプライト	明褐	CL'	100	20	59			
				アプライト	明褐	CL'	100	28	79			
				アプライト	明褐	CL'	100	35	68			
				アプライト	明褐	CL'	100	25	25			
				アプライト	明褐	CL'	100	12	12			
				アプライト	明褐	CL'	100	19	44			26.30m ・割れ目に沿って、灰白色粘土を挟む。
				アプライト	明褐	CL'	100	28	42			26.77~27.60m ・割れ目が密着しており、柱状を呈する。
				アプライト	明褐	CL'	100	18	30			
				アプライト	明褐	CL'	100	24	46			
				アプライト	明褐	CL'	100	23	61			
				アプライト	明褐	CL'	100	12	12			31.26~31.50m ・ペグマタイトを挟む。
				アプライト	明褐	CL'	100	17	34			・割れ目が多い。
				アプライト	明褐	CL'	100	25	60			
				アプライト	明褐	CL'	100	16	27			
				アプライト	明褐	CL'	100	34	52			34.53~34.62m ・変質している。 ・原岩組織は不明瞭である。幅7mmの固結した粘土を挟む。
				アプライト	明褐	CL'	100	14	14			・上端境界の傾斜は40°、下端境界の傾斜は31°である。
				アプライト	明褐	CL'	100	37	70			●36.35~36.58m ・破碎部である。 ・灰白色の粘土状~細礫・砂質粘土状を呈する。
				アプライト	明褐	CL'	100	23	45			
				アプライト	明褐	CL'	100	30	68			
				アプライト	明褐	CL'	100	37	89			・灰白色粘土：累計厚10mm ・走向・N3°E53°Wである。 ・上端境界の傾斜は14°、下端境界の傾斜は32°である。
				アプライト	明褐	CL'	100	37	89			37.14~37.32 37.67~37.70m ・ペグマタイトである。
				アプライト	明褐	CL'	100	28~41.00m				・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。



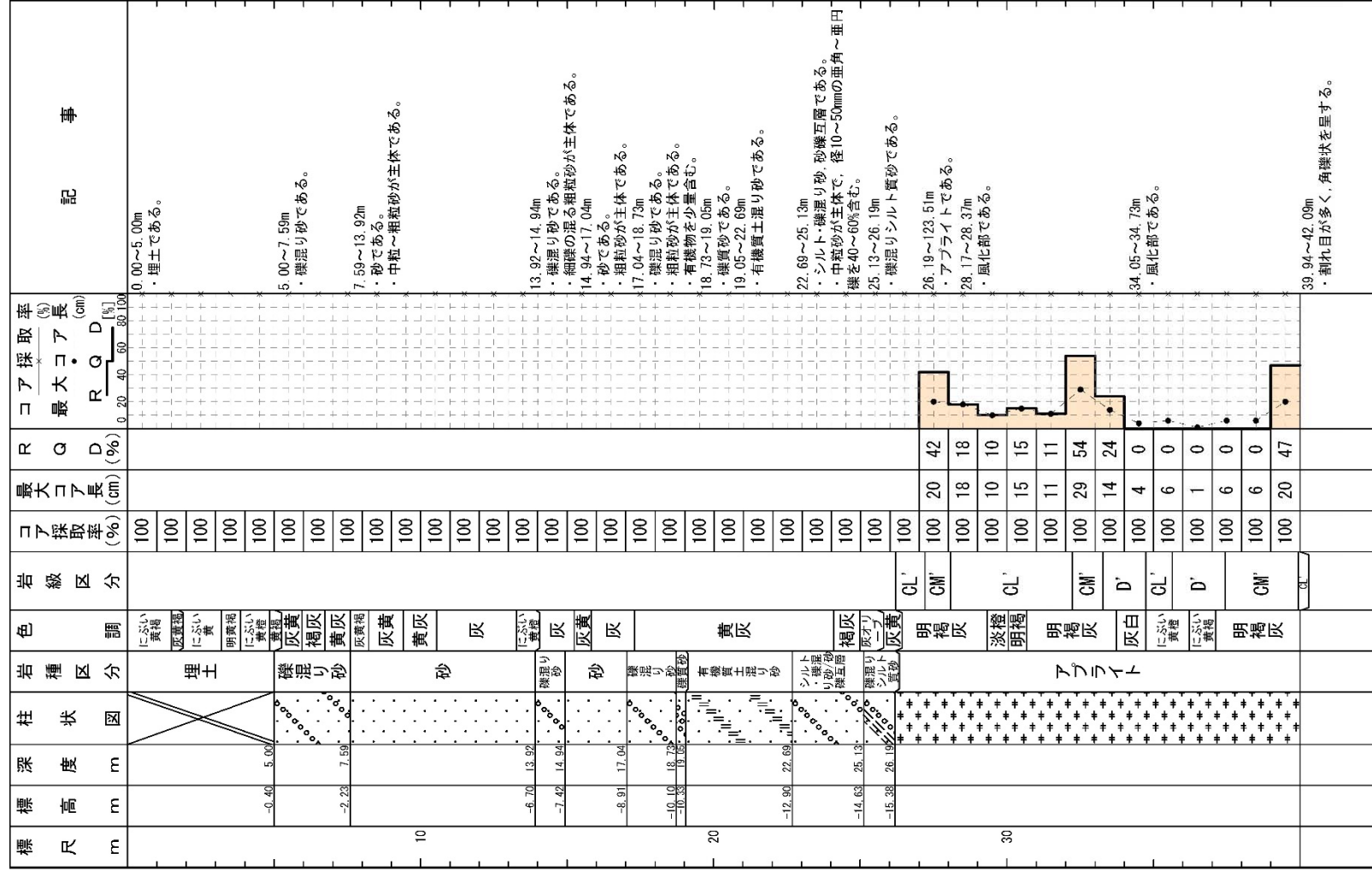


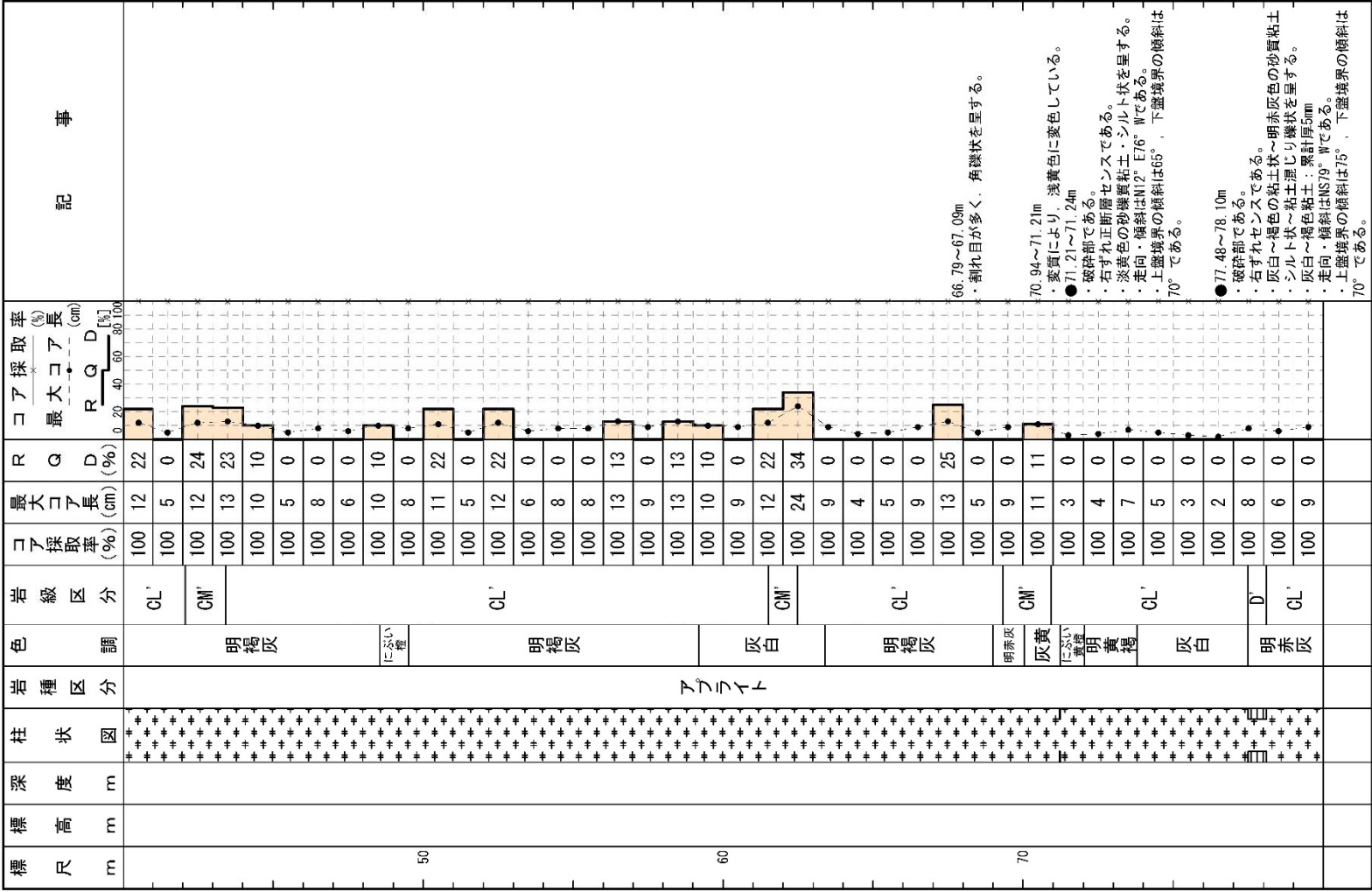
第7.4.4.182図 (3) D-6 破砕帯及びD-5 破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 12)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事	
			+++++	花崗斑岩	にぶい 黄褐色	GM'	100	15						● 247.57~247.64m ・破砕部である。 ・灰褐色のシルト混じり礫状を呈する。幅1~5mmの灰白色砂質シルトを網目状に挟む。 ・ボアホールデレでは走向・傾斜は測定できない。 ・上盤境界の傾斜は41°、下盤境界の傾斜は47°である。	
			+++++			CL'	100	13							35
			+++++			GM'	100	17							32
	-144.73	250.00	+++++				100	30							

H24-B11-2

孔口標高	T.P.	3.14m	掘削長	150.00m
------	------	-------	-----	---------

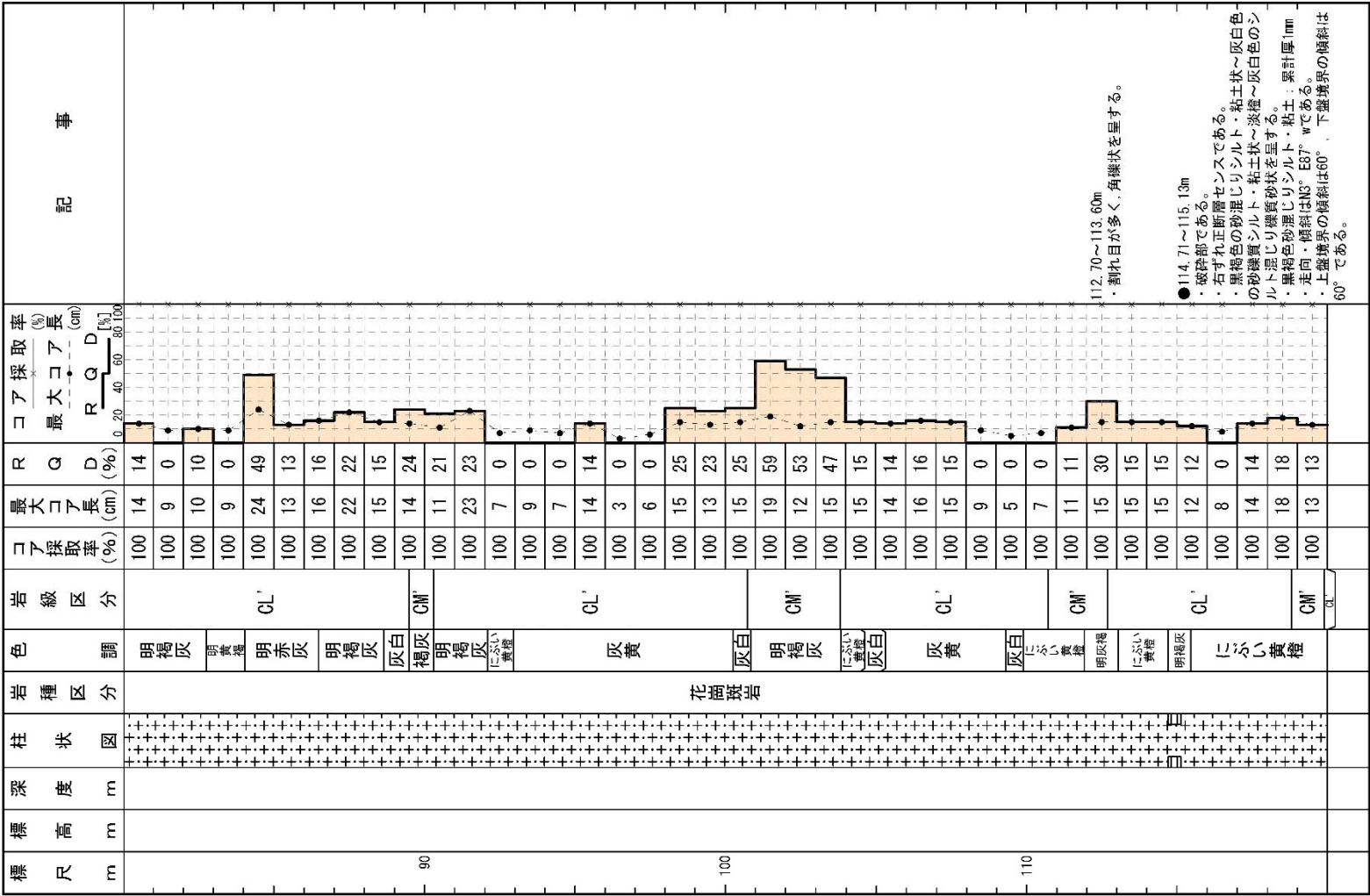


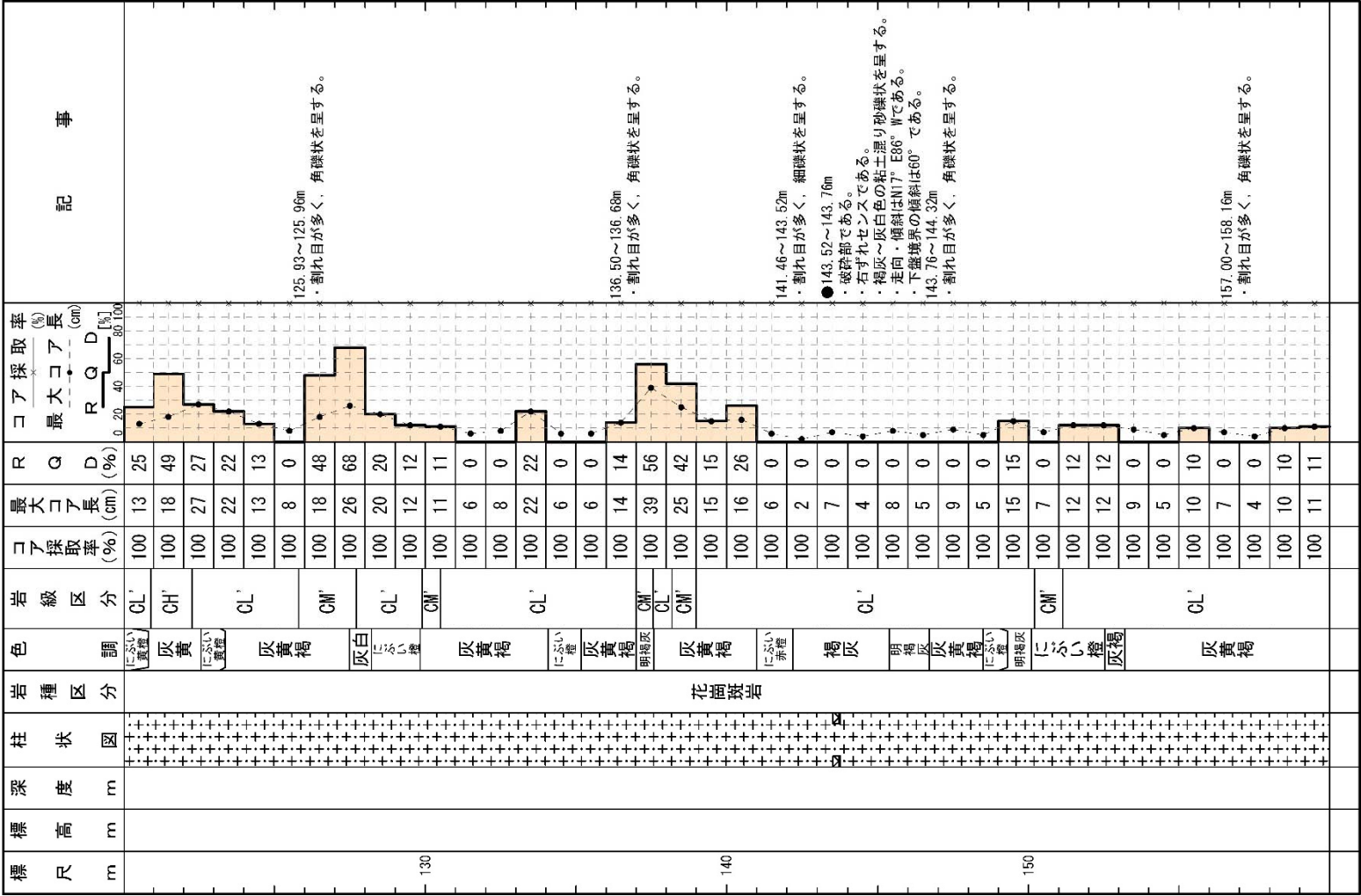


H24-B8-22

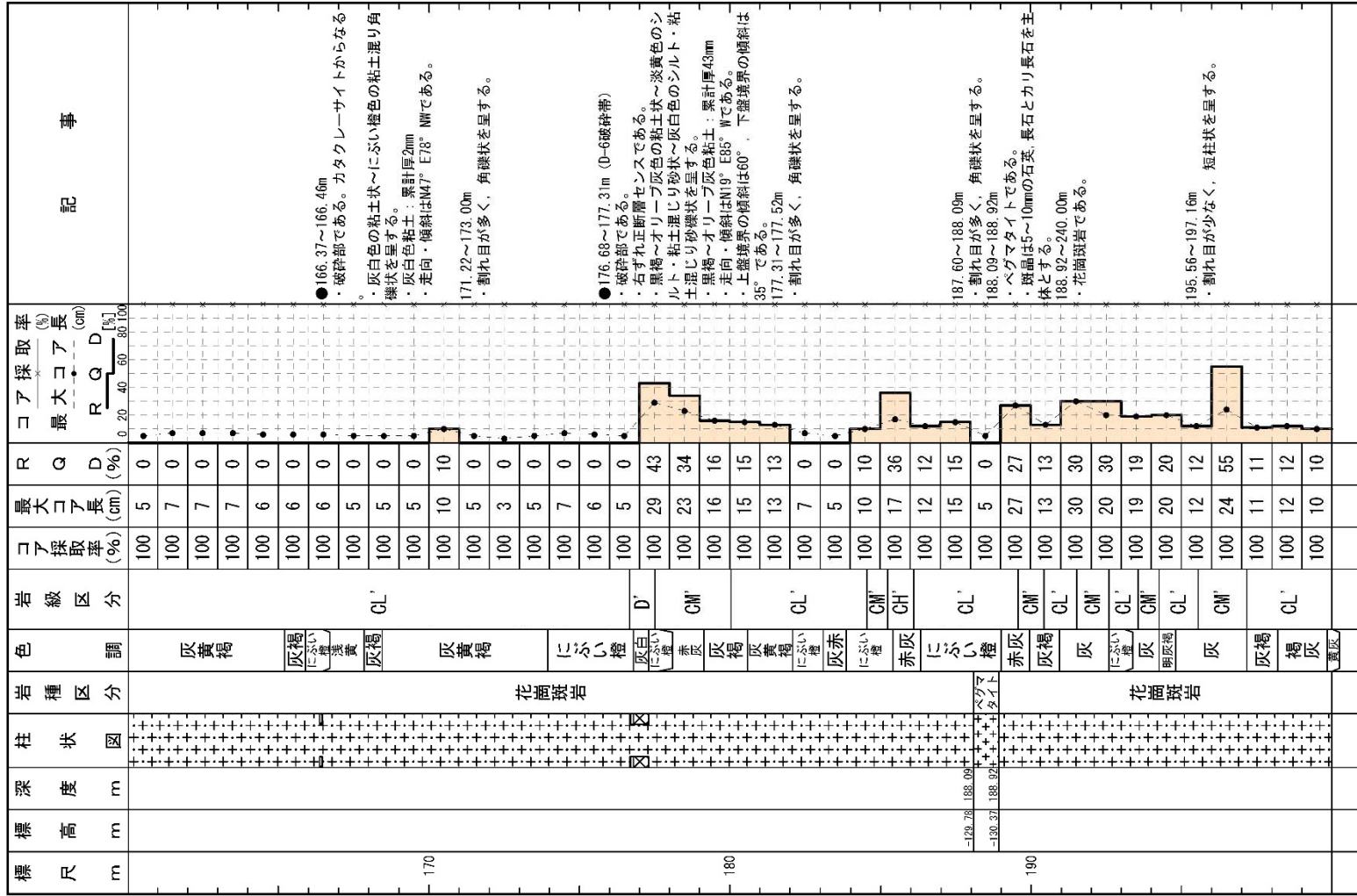
孔口標高	I.P.	掘削長	240.00m
------	------	-----	---------

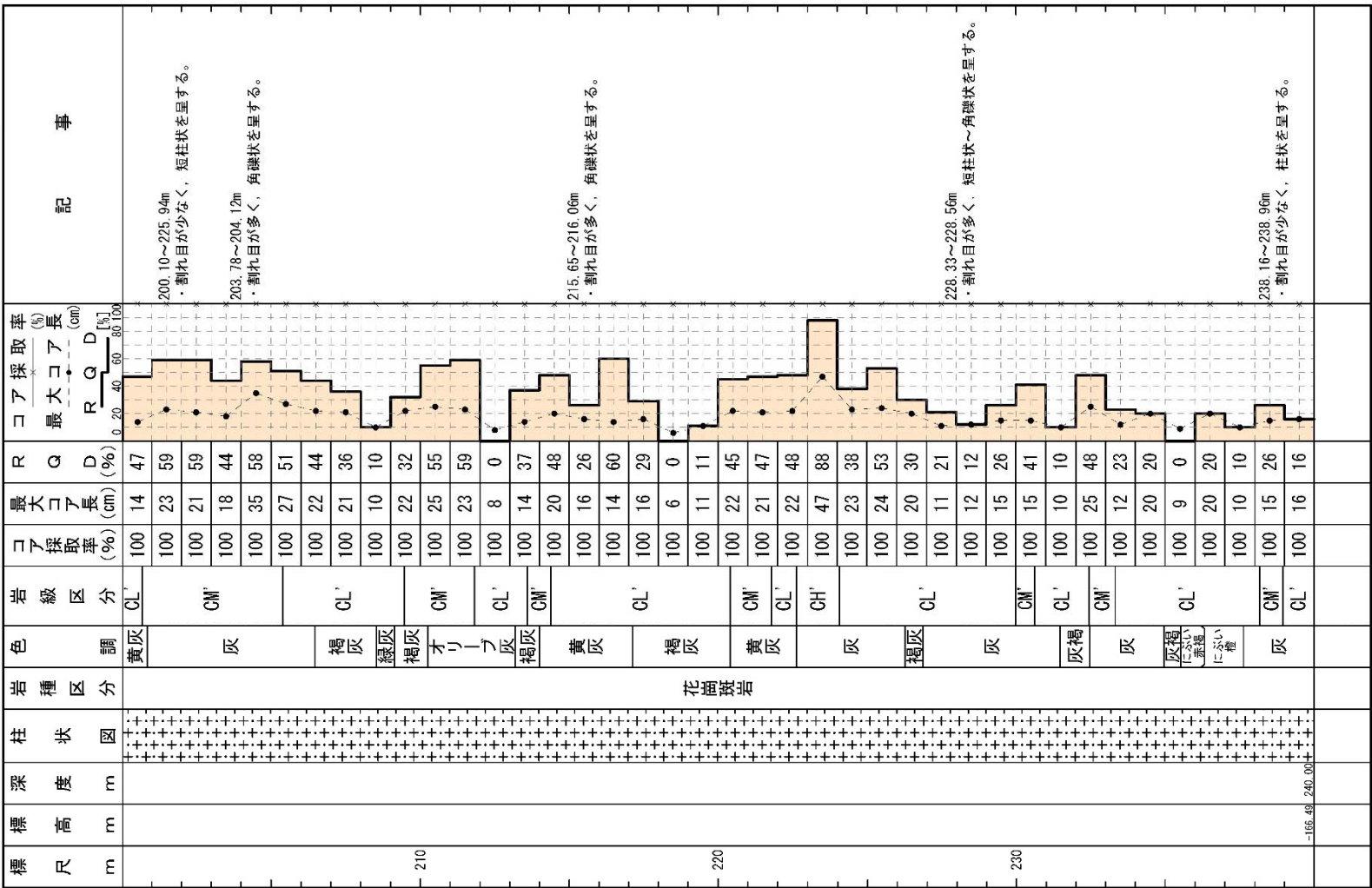
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事
					埋土	埋土	100						0.00~4.97m ・埋土である。
	-0.26	4.97			灰白	灰白	100						
	-1.89	7.22			黒褐色	黒褐色	100						4.97~5.16m ・シルト質砂である。 ・中粒砂が主体である。
	-2.63	8.27			灰白	灰白	100						5.16~7.22mm ・有機質シルトである。
	-3.46	9.45			灰黄	灰黄	100						7.22~8.27m ・中～粗粒砂が主体である。 ・砂である。
10					砂	砂	100						8.27~9.45m ・中～粗粒砂が主体である。 ・砂である。
	-7.35	14.95			灰白	灰白	100						9.45~14.95m ・砂である。 ・中～粗粒砂が主体である。
	-8.94	17.20			浅黄	浅黄	100						14.95~17.20m ・シルト湿り砂である。
	-10.02	18.72			灰白	灰白	100						17.20~18.72m ・砂である。 ・シルト湿り中～粗粒砂が主体である。
20					砂	砂	100						18.72~22.45m ・中～粗粒砂が主体である。
	-12.65	22.45			灰白	灰白	100						22.45~24.09m ・砂質シルトである。
	-13.81	24.09			暗黄	暗黄	100						24.09~25.51m ・中～粗粒砂が主体である。
	-14.82	25.51			暗黄	暗黄	100						25.51~27.25m ・中～粗粒砂が主体である。
	-16.05	27.25			暗黄	暗黄	100						27.25~27.94m ・シルト質砂である。
	-16.54	27.94			暗黄	暗黄	100						27.94~29.29m ・中～粗粒砂が主体である。
	-17.49	29.29			暗黄	暗黄	100						29.29~30.25m ・中～粗粒砂が主体である。
30					暗黄	暗黄	100						30.25~31.04m ・中～粗粒砂が主体である。
	-18.17	30.25			暗黄	暗黄	100						31.04~32.00m ・中～粗粒砂が主体である。
	-18.73	31.04			暗黄	暗黄	100						32.00~33.95m ・中～粗粒砂が主体である。
	-19.41	32.00			暗黄	暗黄	100						33.95~35.58mm ・中～粗粒砂が主体である。
	-20.79	33.95			暗黄	暗黄	100						35.58~42.82m ・中～粗粒砂が主体である。
	-21.94	35.58			暗黄	暗黄	100						砂質である。





第7.4.4.184図 (4) D-6 破碎帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋北方) コア柱状図 (H24-No. B8-22)





第7.4.4.184図 (6) D-6 破碎帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋北方) コア柱状図 (H24-No. B8-22)

H20-①-9

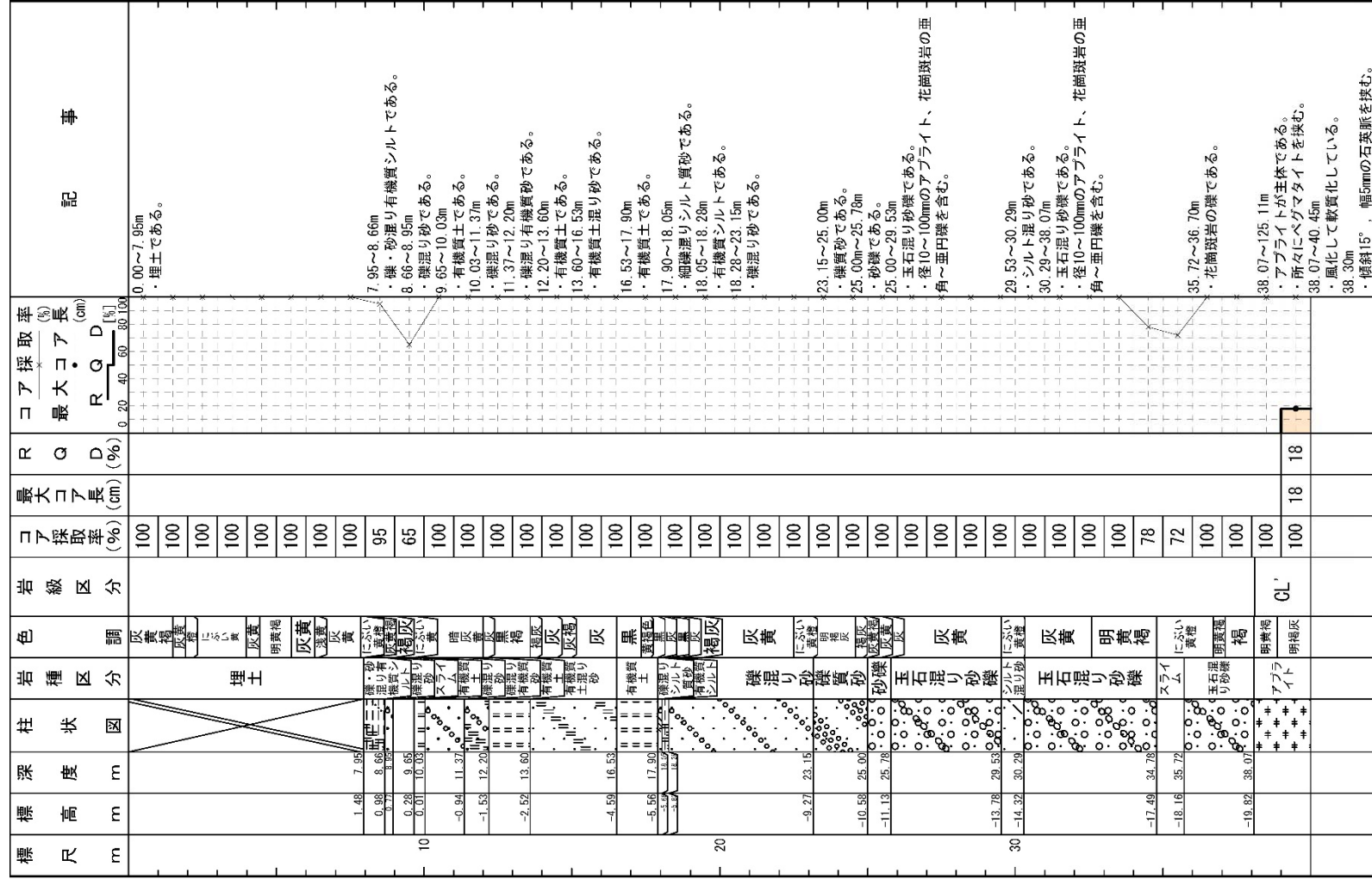
孔口標高	I.P.	掘削長	75.00m
------	------	-----	--------

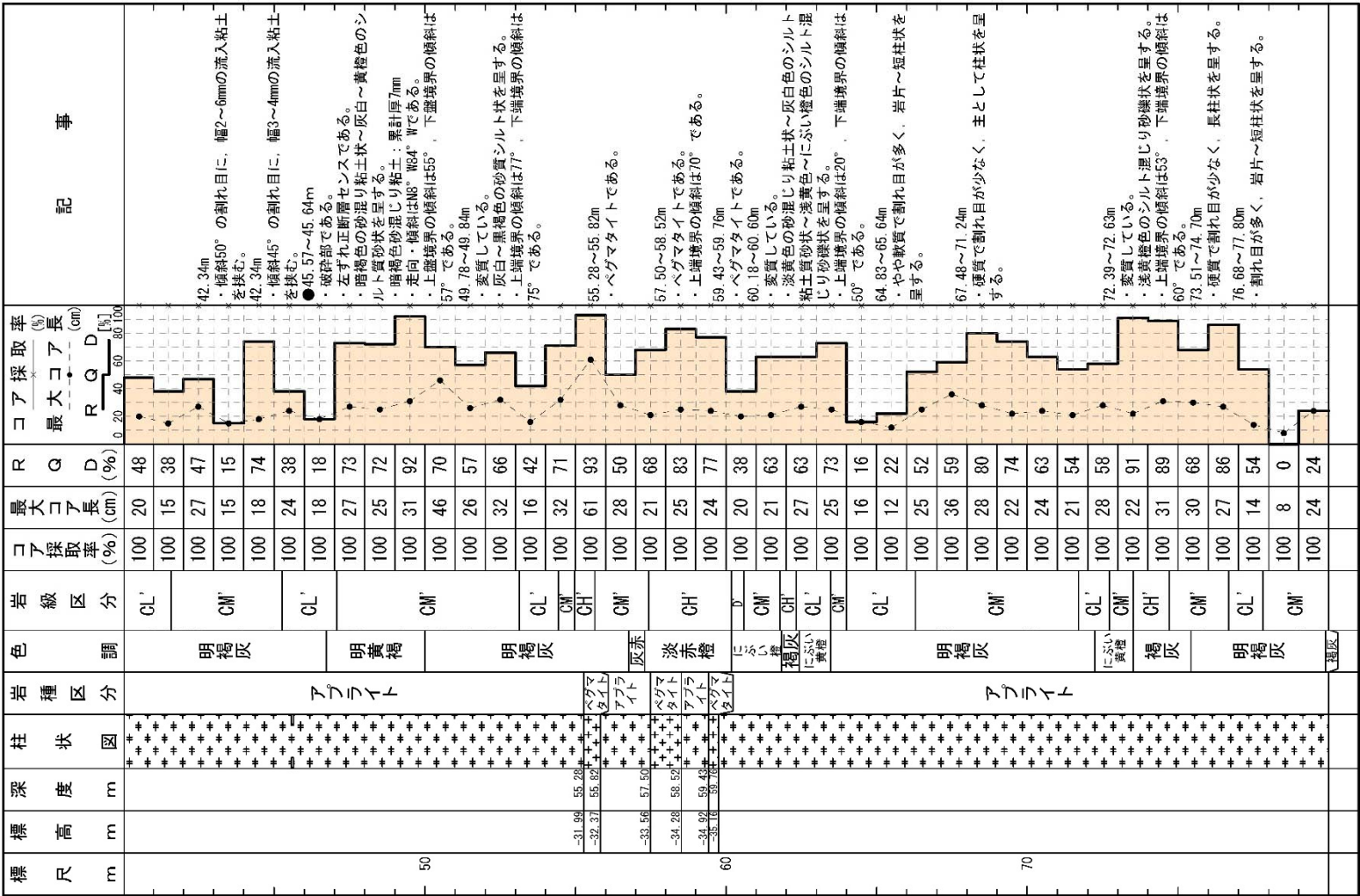
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D	記事
	28.12	0.35	腐植土	腐植土	黒褐色		100				0.00~0.35m ・腐植土である。
	28.65	1.00	腐植土	腐植土	明黄褐色		100				0.35~1.00m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				1.00~5.74m ・腐植土である。
	25.24	5.74	腐植土	腐植土	明黄褐色		100				5.74~6.40m ・腐植土である。
	24.77	6.40	腐植土	腐植土	明黄褐色		100				6.40~13.75m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				6.40~8.75m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				8.75~11.19m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				11.19~14.37m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				14.37~17.73m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				17.73~20.44m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				20.44~24.65m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				24.65~27.52m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				27.52~30.02m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				30.02~34.60m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				34.60~37.15m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				37.15~40.00m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				40.00~43.75m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				43.75~47.50m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				47.50~51.25m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				51.25~55.00m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				55.00~58.75m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				58.75~62.50m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				62.50~66.25m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				66.25~70.00m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				70.00~73.75m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				73.75~77.50m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				77.50~81.25m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				81.25~85.00m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				85.00~88.75m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				88.75~92.50m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				92.50~96.25m ・腐植土である。
			腐植土	腐植土	明黄褐色		100				96.25~100.00m ・腐植土である。

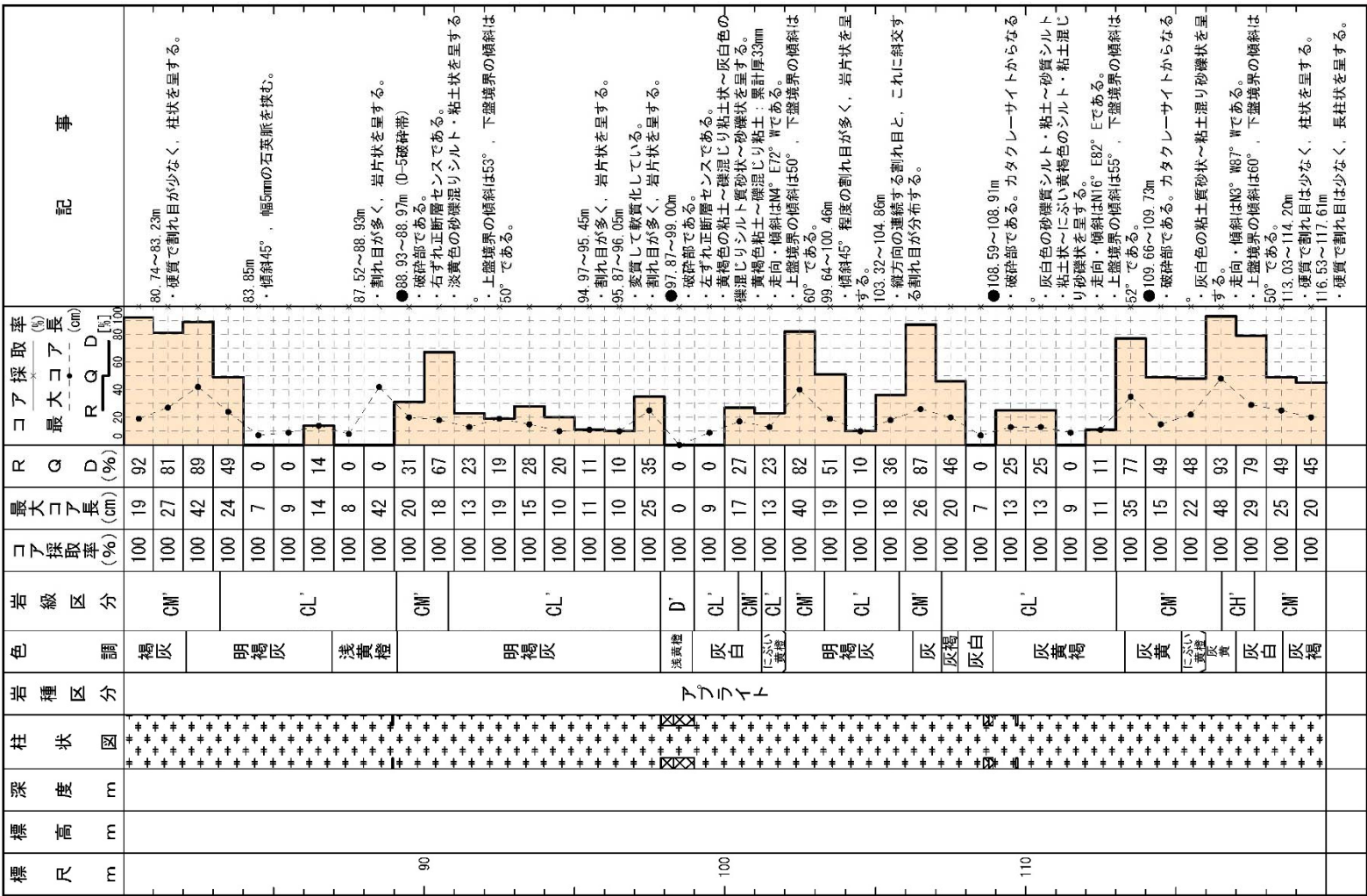
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	長さ (cm)	事記
			+	花崗斑岩	明褐色	CL'	100	6	0			100	6	0	0	71.43~71.58m
			+		明褐色		100	3	0			100	3	0	0	・変質している。
			+		明褐色		100	7	0			100	7	0	0	・明黄褐色を呈し、軟質化している。
			+		明褐色		100	7	0			100	7	0	0	・上端境界の傾斜は8°、下端境界の傾斜は7°である。
	-24.58	75.00	+		灰白	D'	100	9	0			100	9	0	0	72.58~72.80m
			+		明褐色											・変質している。
			+		明褐色											・灰白色粘土が網目状に分布する。
			+		明褐色											・上端境界の傾斜は56°、下端境界の傾斜は38°である。
			+													73.38~73.62m
			+													・変質している。
			+													・灰白色粘土が網目状に分布する。
			+													・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は17°である。
			+													73.91~74.75m (D-5破碎帯)
			+													・凝砕部である。
			+													・暗灰色の粘土状～灰白色の粘土混じり礫状を呈する。
			+													・暗灰色粘土：累計厚29mm
			+													・走向・傾斜はN9°W84°Wである。
			+													・上端境界の傾斜は3°、下端境界の傾斜は7°である。
			+													
			+													

H24-B11-1

掘削長	150.00m
掘削高	7.10m
掘削高	I.P.







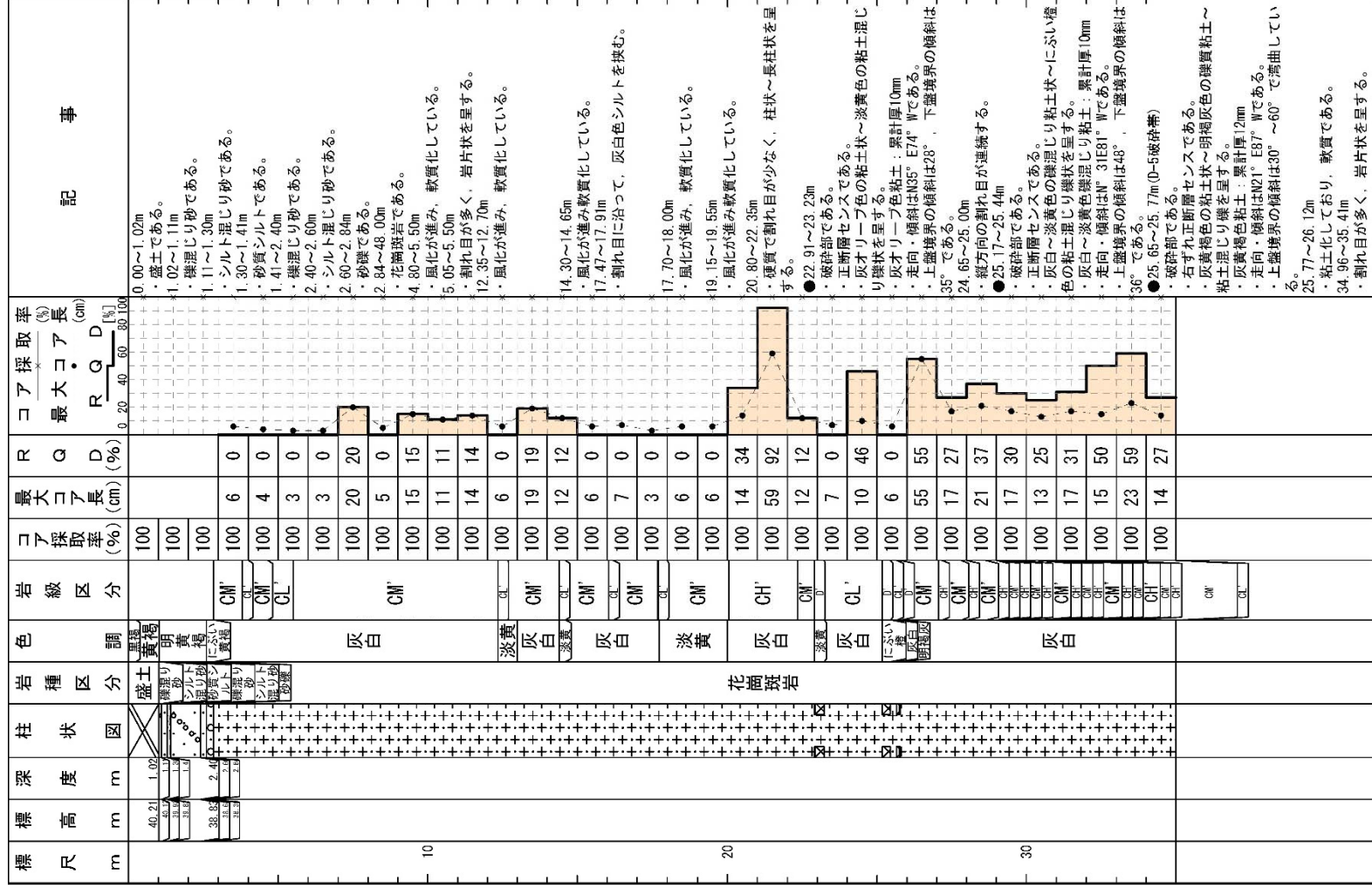
標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
70			+	花崗斑岩	灰白	CL'	100	7	0	0	0	100	7	0	0	0	100	7	66.34~67.37m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							100	4	0	0	0	100	4	0	0	0	100	4	
							100	4	0	0	0	100	4	0	0	0	100	4	
							100	8	0	0	0	100	8	0	0	0	100	8	
							100	6	0	0	0	100	6	0	0	0	100	6	70.46~70.53m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							100	7	0	0	0	100	7	0	0	0	100	7	
							100	3	0	0	0	100	3	0	0	0	100	3	
							100	8	0	0	0	100	8	0	0	0	100	8	73.60~160.40m ・アブライトである。
							100	5	0	0	0	100	5	0	0	0	100	5	
							100	13	13	0	0	100	13	13	0	0	100	13	75.56~76.01m ・割れ目が多く角礫状を呈する。
80			+	アブライト	灰白	CL'	100	7	0	0	0	100	7	0	0	0	100	7	76.01~77.36m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							100	9	0	0	0	100	9	0	0	0	100	9	
							100	4	0	0	0	100	4	0	0	0	100	4	
							100	3	0	0	0	100	3	0	0	0	100	3	
							100	2	0	0	0	100	2	0	0	0	100	2	79.86~80.17m ・破砕部である。
							100	13	24	0	0	100	13	24	0	0	100	13	・黒褐色の砂混りシルト状～淡褐色の粘土質砂礫状を呈する。
							100	13	24	0	0	100	13	24	0	0	100	13	・黒褐色砂混りシルト：累計厚6mm
							100	5	0	0	0	100	5	0	0	0	100	5	・走向・傾斜はN18° E89° Wである。
							100	14	14	0	0	100	14	14	0	0	100	14	・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は30°である。
							100	11	11	0	0	100	11	11	0	0	100	11	80.76~81.03m ・割れ目が多く角礫状を呈する。
90			+	アブライト	灰白	CL'	100	5	0	0	0	100	5	0	0	0	100	5	81.03~82.37m ・割れ目間隔が広く、柱状を呈する。
							100	11	21	0	0	100	11	21	0	0	100	11	●88.67~88.71m ・破砕部である。
							100	11	11	0	0	100	11	11	0	0	100	11	・褐色の粘土状～黄白色の砂混りシルト状を呈する。
							100	5	0	0	0	100	5	0	0	0	100	5	・褐色粘土：累計厚12mm
							100	4	0	0	0	100	4	0	0	0	100	4	・走向・傾斜はN34° E89° NWである。
							100	4	0	0	0	100	4	0	0	0	100	4	・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は38°である。
							100	11	11	0	0	100	11	11	0	0	100	11	●82.86~93.53m (D-5破砕帯) ・破砕部である。
							100	6	0	0	0	100	6	0	0	0	100	6	・右ずれ正断層センスである。
							100	5	0	0	0	100	5	0	0	0	100	5	・にぶい帯礫～明褐色の粘土混り角礫状～灰白色の角礫状を呈する。
							100	3	0	0	0	100	3	0	0	0	100	3	・走向・傾斜はN5° W62° Eである。
			+	アブライト	明褐色	CL'	100	13	13	0	0	100	13	13	0	0	100	13	95.56~95.87m ・風化部である。
							100	8	0	0	0	100	8	0	0	0	100	8	・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							100	13	13	0	0	100	13	13	0	0	100	13	

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D (%)	記事						
100			+	アフリイト	明褐色	CL'	100	11	22									● 131.03~131.14m ・破砕帯である。 ・灰黄褐色の粘土混り砂礫~粘土混り角礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN3° W84° Wである。 ・上盤境界の傾斜は62°、下盤境界の傾斜は40°である。 131.28~131.88m ・割れ目が多く角礫状を呈する。 ● 131.88~132.82m ・破砕帯である。 ・暗褐色の粘土状~浅黄褐色~褐色の粘土混り角礫状を呈する。 ・暗褐色粘土：累計厚13mm ・走向・傾斜はN15° E80° Eである。 ・上盤境界の傾斜は60°、下盤境界の傾斜は60°である。					
							D'	100	7	0													
						にふい橙	100	7	0														
							100	8	0														
							100	9	0														
							100	15	26														
							100	15	54														
							100	13	34														
							100	16	27														
							100	12	12														
110		+	アフリイト	明褐色	CL'	100	7	0									119.05~123.73m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。						
						D'	100	11	11														
					にふい橙	100	7	0															
						100	4	0															
						100	3	0															
						100	10	10															
						100	11	11															
						100	10	10															
						100	7	0															
						100	7	0															
120		+	アフリイト	明褐色	CL'	100	11	11									125.97~126.05m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。						
						D'	100	12	12														
					明褐色	100	8	0															
						100	7	0															
						100	5	0															
						100	19	19															
						100	10	10															
						100	5	0															
						100	11	11															
						100	3	0															
130		+	アフリイト	明褐色	CL'	100	7	0									● 131.03~131.14m ・破砕帯である。 ・灰黄褐色の粘土混り砂礫~粘土混り角礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN3° W84° Wである。 ・上盤境界の傾斜は62°、下盤境界の傾斜は40°である。 131.28~131.88m ・割れ目が多く角礫状を呈する。 ● 131.88~132.82m ・破砕帯である。 ・暗褐色の粘土状~浅黄褐色~褐色の粘土混り角礫状を呈する。 ・暗褐色粘土：累計厚13mm ・走向・傾斜はN15° E80° Eである。 ・上盤境界の傾斜は60°、下盤境界の傾斜は60°である。						
						D'	100	3	0														
					にふい橙	100	7	0															
						100	6	0															
						100	3	0															
						100	19	19															
						100	10	10															
						100	5	0															
						100	11	11															
						100	3	0															

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
170			+++++	花崗斑岩	緑灰	CL'	100	14	14	0	0	0	14	0	14	167.22～168.86m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							100	15	37	0	0	0	15	0	15	
							100	3	0	0	0	0	3	0	3	
							100	3	0	0	0	0	3	0	3	
							100	5	0	0	0	0	5	0	5	
							100	4	0	0	0	0	4	0	4	
							100	4	0	0	0	0	4	0	4	
							100	5	0	0	0	0	5	0	5	
							100	5	0	0	0	0	5	0	5	
							100	4	0	0	0	0	4	0	4	
180			+++++	花崗斑岩	灰	CL'	100	5	0	0	0	0	5	0	5	183.04～183.56m ・割れ目は少なく、柱状を呈する。
							100	8	0	0	0	0	8	0	8	
							100	9	0	0	0	0	9	0	9	
							100	9	0	0	0	0	9	0	9	
							100	4	0	0	0	0	4	0	4	
							100	3	0	0	0	0	3	0	3	
							100	3	0	0	0	0	3	0	3	
							100	3	0	0	0	0	3	0	3	
							100	4	0	0	0	0	4	0	4	
							100	3	0	0	0	0	3	0	3	
190			+++++	花崗斑岩	灰	CL'	100	12	12	0	0	0	12	12	12	183.04～183.56m ・割れ目は少なく、柱状を呈する。
							100	7	0	0	0	0	7	0	7	
							100	15	15	0	0	0	15	15	15	
							100	9	0	0	0	0	9	0	9	
							100	9	0	0	0	0	9	0	9	
							100	4	0	0	0	0	4	0	4	
							100	8	0	0	0	0	8	0	8	
							100	3	0	0	0	0	3	0	3	
							100	4	0	0	0	0	4	0	4	
							100	4	0	0	0	0	4	0	4	
			+++++	花崗斑岩	灰	CL'	100	7	0	0	0	0	7	0	7	
							100	14	14	0	0	0	14	14	14	
							100	3	0	0	0	0	3	0	3	
							100	3	0	0	0	0	3	0	3	

H27-D5-1

孔 口 標 高	I.P.	掘 削 長	48.00m
---------	------	-------	--------



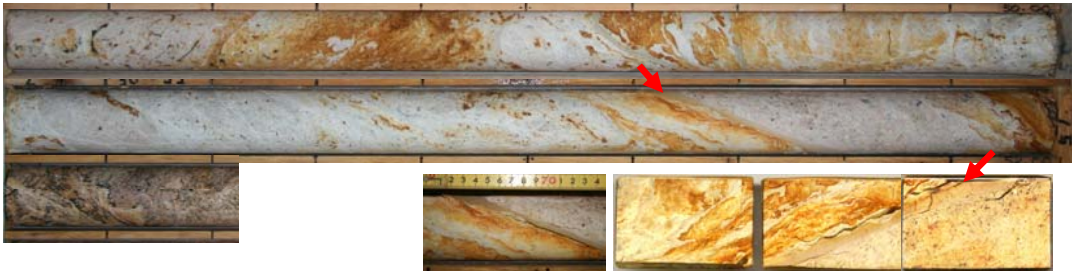
第7.4.4.188図 (2) D-5破碎帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H27-D5-1)

H20-①-10

孔 口 標 高	I.P.	掘 削 長
	57.68m	60.00m

標 尺	標 高	深 度	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	記 事
				礫混じり砂	黄 褐		100					0.00~3.06m ・礫混じり砂である(埋土)。
	54.62	3.06		礫混じり砂	明黄褐		100					3.06~4.29m ・礫混じりシルト質砂である(埋土)。
	53.39	4.29		礫混じりシルト質砂	明赤灰		100					4.29~24.58m ・花崗斑岩である。
				花崗斑岩	淡赤橙	CL'	100	13	23			5.66~10.80m ・軟質化している。
					橙	D'	100	4	0			5.66~5.99m ・変質し粘土化している。
					淡橙		100	10	20			・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は71°である。
					黄橙		100	0	0			6.58~7.13m ・変質している。
					黄橙		100	5	0			・一部灰白色粘土が網目状に分布する。
				花崗斑岩	黄橙	CL'	100	18	35			・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は60°である。
					黄橙		100	10	20			8.51~9.01m ・変質している。
					黄橙		100	17	41			・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
					黄橙		100	11	11			・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は45°である。
					黄橙		100	6	0			●9.01~10.28m ・破砕部である。
					黄橙		100	13	13			・淡黄色の粘土～礫混じり粘土状～淡橙色の粘土混じり礫状を呈する。
					黄橙		100	12	12			・走向・傾斜はN1° W81° Wである。
					黄橙		100	14	14			・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は82°である。
					黄橙		100	18	29			10.28~10.80m ・変質し軟質化している。
					黄橙		100	15	58			・上端境界の傾斜は82°、下端境界の傾斜は83°である。
					黄橙		100	19	29			15.11~15.81m ・変質している。
					黄橙		100	19	65			・傾斜60°程度の割れ目が多く、一部灰白色粘土を伴う。
					黄橙		100	45	83			・上端境界の傾斜は55°、下端境界の傾斜は62°である。
					黄橙		100	14	28			●18.16~18.84m ・破砕部である。
					黄橙		100	12	22			・灰白色の粘土状～浅黄橙色の粘土混じり礫状を呈する。
					黄橙		100	11	11			・走向・傾斜はN26° E81° Wである。
					黄橙		100	18	18			・上端境界の傾斜は70°、下端境界の傾斜は不明瞭である。
					黄橙		100	17	56			24.58~24.79m ・ベグマタイトである。
					黄橙		100	12	34			24.79~26.34m ・花崗斑岩である。
					黄橙		100	22	22			26.34~26.51m ・アブライトである。
					黄橙		100	16	26			・上端境界、下端境界は漸移的である。
					黄橙		100	22	22			26.51~60.00m ・花崗斑岩である。
					黄橙		100	11	11			27.91~35.12m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。
					黄橙		100	10	10			35.12~39.50m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。
					黄橙		100	9	0			・割れ目に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。
					黄橙		100	5	0			
					黄橙		100	11	11			
					黄橙		100	3	0			
					黄橙		100	7	0			39.17~39.29m ・変質している。
					黄橙		100	0	0			・一部灰白色粘土が網目状に分布する。
					黄橙		100	0	0			・上端境界の傾斜は41°、下端境界の傾斜は12°である。
					黄橙		100	0	0			39.82~39.88 ・変質している。
					黄橙		100	0	0			・黄灰色粘土が網目状に分布する。
					黄橙		100	0	0			・上端境界の傾斜は73°、下端境界の傾斜は64°である。

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
					にぶい黄 にぶい黄	CL'	100	10	10					40.65~41.00m ・変質している。 ・黄灰色粘土が網目状に分布する。
					灰白	GM'	100	17	31					42.09~46.20m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
					明褐灰	GH'	100	20	67					
							100	19	37					
							100	29	76					
							100	21	52					
						GM'	100	20	20					
					にぶい黄	CL'	100	4	0					●48.10~48.26m ・破碎部である。 ・暗灰色の凝滞じりシルト状を呈する。 ・走向・傾斜はN6° E77° Wである。 ・上盤境界の傾斜は70°、下盤境界の傾斜は70°である。
					にぶい黄		100	9	0					●50.90~52.95m (0-5破碎部) ・破碎部である。 ・黄灰~灰白色の粘土~凝滞じり粘土状~浅黄色の粘土凝じり状を呈する。 ・走向・傾斜はNS71° Wである。 ・上盤境界の傾斜は68°、下盤境界の傾斜は70°である。
					浅黄	D'	100	4	0					●53.48~53.55m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上盤境界の傾斜は36°、下盤境界の傾斜は56°である。
					浅黄	CL'	100	12	12					53.95~54.20m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・上盤境界の傾斜は58°、下盤境界の傾斜は70°である。
					にぶい黄	D'	100	7	0					55.48~55.55m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上盤境界の傾斜は64°、下盤境界の傾斜は45°である。
					明黄褐	CL'	100	10	10					●55.99~56.05m ・破碎部である。 ・黄白色の粘土状を呈する。 ・黄白色粘土：累計厚13mm ・走向・傾斜はN34° E83° Wである。 ・上盤境界の傾斜は77°、下盤境界の傾斜は77°である。
					明黄褐		56.05~56.77m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・上盤境界の傾斜は77°、下盤境界の傾斜は53°である。							57.95~58.85m ・変質している。 ・割れ目が密集しており、割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・上盤境界の傾斜は58°、下盤境界の傾斜は76°である。
							59.35~59.56m ・変質している。 ・一部灰白色粘土を伴う。 ・上盤境界の傾斜は85°、下盤境界の傾斜は不明瞭である。							

破砕帯 番号	確認孔	破砕帯範囲		破砕幅 (cm)	性状 (上盤側から)	色調		走向 ※磁北	傾斜	変位 センス		コア写真・研磨片写真	 :断層ガウジ  :走向・傾斜測定位置
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)			断層 ガウジ	カタクレー サイト			鉛直	水平		
D-1	H19- No.2	149.71	149.84	8.0	断層ガウジ	灰白 褐	-	N2W	72W	未 確認	未 確認		
D-1	H19- No.14	86.12	87.03	51	断層ガウジ カタクレーサイト 断層ガウジ	灰白 灰黄褐	淡桃白 灰	N20E	81W	正	右		
D-1	H20- No.②-1	49.21	51.10	80	カタクレーサイト 断層ガウジ カタクレーサイト 断層ガウジ カタクレーサイト	灰白 橙	黄白 明褐 淡桃灰	-	-	正	右		
D-1	H-a6 (2号機 底盤)	-	-	-	断層ガウジ カタクレーサイト	黄白 浅黄褐	明褐 黄白	N10E ～5W	75～ 80W	未 確認	未 確認	写真 なし	

破砕帯 番号	確認孔	破砕帯範囲		破砕幅 (cm)	性状 (上盤側から)	色調		走向 ※磁北	傾斜	変位 センス		コア写真・研磨片写真	 :断層ガウジ  :走向・傾斜測定位置
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)			断層 ガウジ	カタクレー サイト			鉛直	水平		
D-1	H24-D1-1	60.12	60.15	2.5	カタクレーサイト	灰白	にぶい黄	N9E	88W	正	未 確認		
D-1	H24-B14-2	109.16	109.46	7.8	断層ガウジ カタクレーサイト 断層ガウジ カタクレーサイト	明緑灰	灰白 明緑灰	N1W	76W	正	右		
D-1	H24-D1-2	12.38	12.97	41.7	カタクレーサイト 断層ガウジ カタクレーサイト	灰白 灰黄	にぶい褐 にぶい黄 褐	N14W	70W	正	未 確認		
D-1	H24-D1-3	34.23	34.52	16.6	カタクレーサイト 断層ガウジ カタクレーサイト	白 灰黄	灰黄 灰黄褐 黒褐	N12W	89W	(正)	右		
D-1	H24-D1-4	10.91	10.93	1.7	断層ガウジ	浅黄橙 灰白	-	N13E	78W	正	右		
D-1	H24-D1-5	47.47	47.89	17.7	断層ガウジ カタクレーサイト 断層ガウジ	灰褐	灰黄 黒褐	N1E	88W	正	右		

破砕帯 番号	確認孔	破砕帯範囲		破砕幅 (cm)	性状 (上盤側から)	色調		走向 ※磁北	傾斜	変位 センス		コア写真・研磨片写真	 :断層ガウジ  :走向・傾斜測定位置
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)			断層 ガウジ	カタクレー サイト			鉛直	水平		
D-1	H27- B-1	59.82	59.85	2.5	カタクレーサイト 断層ガウジ	灰褐 灰白	にぶい褐	N26E	80W	正	未 確認		
D-1	H27- B-2	61.29	61.69	28.8	カタクレーサイト 断層ガウジ カタクレーサイト	灰黄褐	にぶい橙 灰白	N8E	89W	正	未 確認		
D-1	H27- B-3	119.11	119.25	12.3	カタクレーサイト 断層ガウジ カタクレーサイト	緑灰	にぶい橙 暗緑灰	N20E	87W	正	右		
D-1	H27- B-4	15.91	16.36	31.8	カタクレーサイト 断層ガウジ	灰白 浅黄橙	灰白 にぶい橙	N16W	83W	正	右		
D-1	H27- G-12	11.12	11.60	16.4	カタクレーサイト 断層ガウジ カタクレーサイト	黒褐 灰白	灰白 にぶい橙	-	-	未 確認	未 確認		
D-1	H27- G-13	7.60	7.97	12.7	カタクレーサイト 断層ガウジ カタクレーサイト	浅黄橙	灰白 にぶい橙	-	-	未 確認	未 確認		

第7.4.4.190図 (3) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 破砕帯カタログ (その3)

破砕帯 番号	確認孔	破砕帯範囲		破砕幅 (cm)	性状 (上盤側から)	色調		走向 ※磁北	傾斜	変位 センス		コア写真・研磨片写真  :断層ガウジ  :走向・傾斜測定位置
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)			断層 ガウジ	カタクレ サイト			鉛直	水平	
D-6	H24- B8-22	176.68	177.31	10	断層ガウジ カタクレサイト	黒褐 オリーブ灰	浅黄 灰白	N19E N14E	85W 87W	正	右	
D-6	H24- B11-2	80.50	83.93	171.5	断層ガウジ カタクレサイト 断層ガウジ カタクレサイト	灰白	淡黄 灰白	N9E	80W	正	右	
D-6	H19- No.4	171.69	174.88	209	断層ガウジ カタクレサイト	灰白	褐灰 明黄褐 橙 灰黄	N9E	78W	正	右	 走向・傾斜は上端で測定したデータを使用。
D-6	H19- No.12	224.67	225.08	32	断層ガウジ カタクレサイト	緑灰	灰白	-	-	未 確認	未 確認	 走向・傾斜を測定できず。
D-6	F-3 (試掘坑)	-	-	150～300	断層ガウジ カタクレサイト	-	-	N24～ 27E	73～ 77W	未 確認	未 確認	写真なし

第7.4.4.191図 D-6 破砕帯 ボーリング調査結果 破砕帯カタログ

破砕帯 番号	確認孔	破砕帯範囲		破砕幅 (cm)	性状 (上盤側から)	色調		走向 ※磁北	傾斜	変位 センス		コア写真・研磨片写真	 : 断層ガウジ  : 走向・傾斜測定位置
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)			断層 ガウジ	カタクレー サイト			鉛直	水平		
D-5	H24-B8-21	92.86	93.53	17	カタクレーサイト 断層ガウジ	褐灰 褐	褐灰	N1W	89W	正	右		
D-5	H24-B11-1	88.93	88.97	3.8	カタクレーサイト	灰白	黄灰	N4E	81W	正	右		
D-5	H19-No.12	172.20	172.45	22	断層ガウジ カタクレーサイト	暗褐	灰白 浅黄	-	-	未 確認	未 確認		
D-5	H19-No.4	107.54	109.94	178	断層ガウジ カタクレーサイト	明桃	明桃 灰白	N16E	87W	正	右		
D-5	H20-①-9	73.91	74.75	30	カタクレーサイト 断層ガウジ	灰白	灰白	N9W	84W	未 確認	未 確認	研磨片  ボーリングコア 	
D-5	H20-①-10	50.90	52.95	74	断層ガウジ カタクレーサイト	黄灰 灰白	灰白 浅黄	NS	71W	未 確認	未 確認		
D-5	H27-D5-1	25.65	25.77	8	カタクレーサイト 断層ガウジ	明褐灰	灰黄褐	N21E	87NW	正	未 確認		
D-5	F-2 (試掘坑)	-	-	400~500	断層ガウジ カタクレーサイト	-	-	N25E	60~ 70W	未 確認	未 確認	写真なし	

第7. 4. 4. 192図 D-5 破砕帯 ボーリング調査結果 破砕帯カタログ

普通角閃石

測線C(濃集分析)

試料番号	総試料1g中の重鉱物含有個数			
	GHo		Cum	
7.7-7.8				
7.6-7.7				
7.5-7.6				
7.4-7.5				
7.3-7.4				
7.2-7.3				
7.1-7.2				
7.0-7.1				
6.9-7.0				
6.8-6.9				
6.7-6.8				
6.6-6.7				
6.5-6.6				
6.4-6.5				
6.3-6.4				
6.2-6.3				
6.1-6.2				
6.0-6.1				
5.9-6.0				

● :主成分分析実施箇所

→ :Mh降灰層準

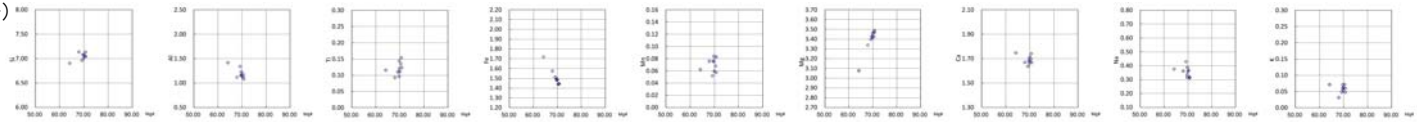
Mg#70付近より低い測定値を示す
普通角閃石も認められる



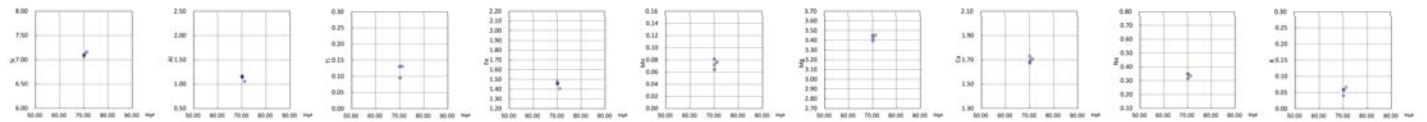
↓
Mg#70付近に
測定値が集中

(試料番号)

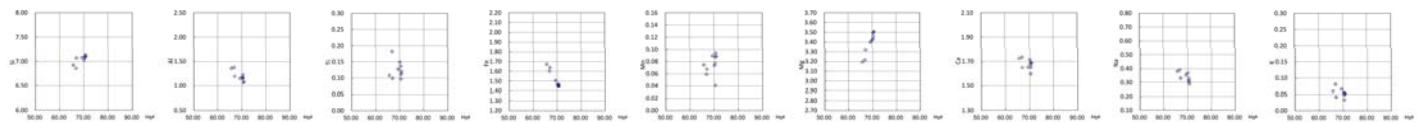
7.0-7.1



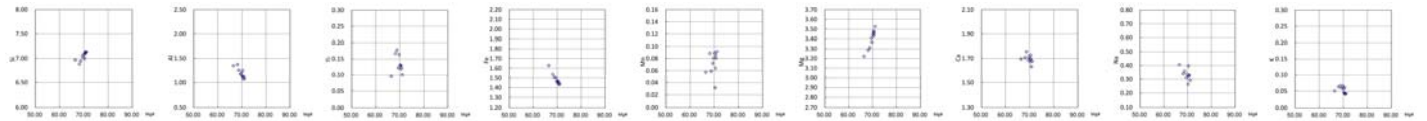
6.9-7.0



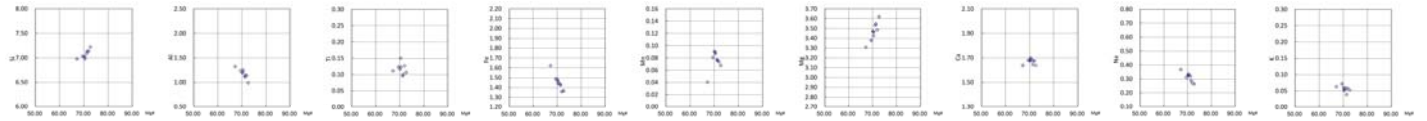
6.8-6.9



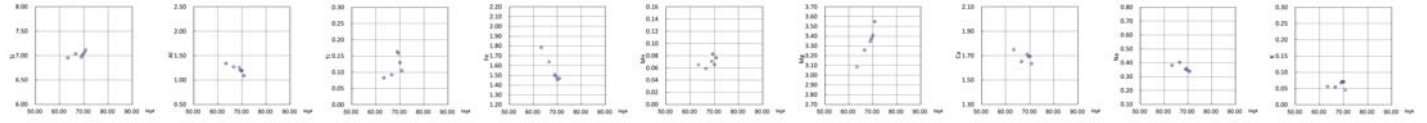
6.7-6.8



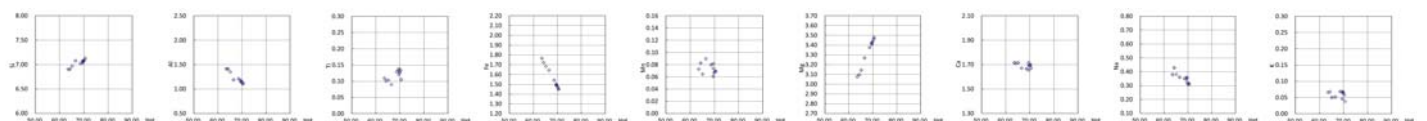
6.6-6.7



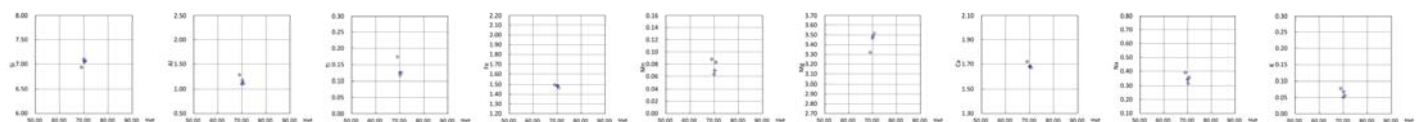
6.5-6.6



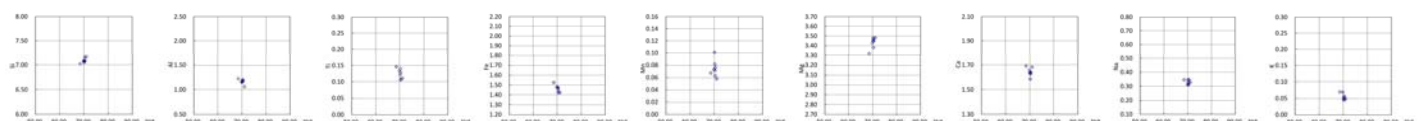
6.4-6.5



6.3-6.4



6.1-6.3



第7.4.4.193図(1) ⑤層下部テフラの分析結果(D-1トレンチ北西法面)(その1)

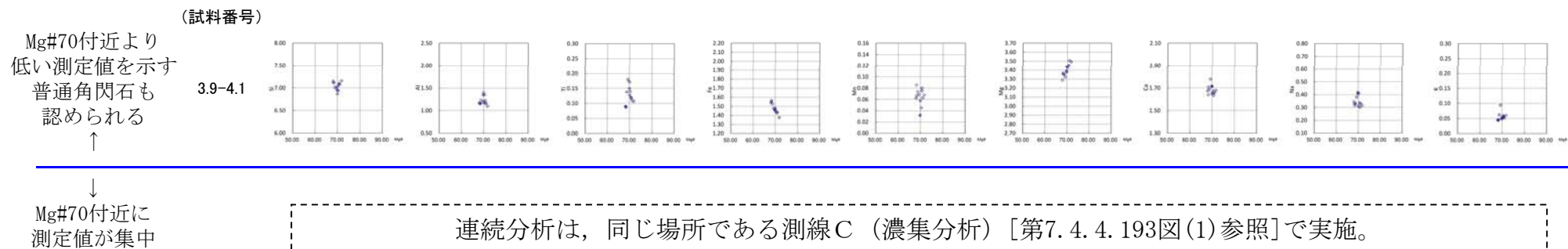
普通角閃石

測線C' (通常分析)

試料番号	重鉍物の含有量 (/3000粒子)			
	GHo		Cum	
	3.0	6.0	0.1	0.2
● 4.0-4.1				
3.9-4.0				
3.8-3.9				
3.7-3.8				
3.6-3.7				
3.5-3.6				
3.4-3.5				
3.3-3.4				
3.2-3.3				
3.1-3.2				
3.0-3.1				
2.9-3.0				
2.8-2.9				
2.7-2.8				
→ 2.6-2.7				
2.5-2.6				
2.4-2.5				

● :主成分分析実施箇所

→ :Mh降灰層準



第7. 4. 4. 193図 (2) ⑤層下部テフラの分析結果 (D-1 トレンチ北西法面) (その2)

普通角閃石

測線C(通常分析)

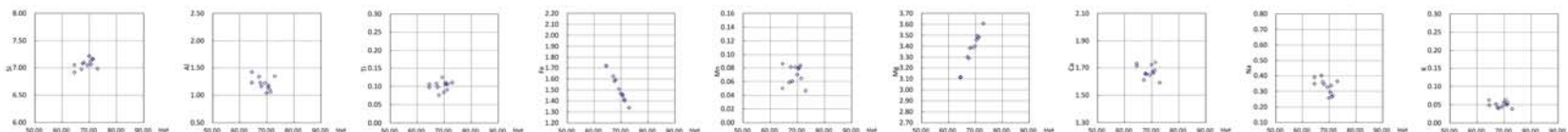
試料番号	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			
	GHo 0.3 0.6		Cum 0.1 0.2	
7.5-7.6				
7.4-7.5				
● 7.3-7.4				
7.2-7.3				
7.1-7.2				
7.0-7.1				
6.9-7.0				
6.8-6.9				
6.7-6.8				
6.6-6.7				
6.5-6.6				
→ 6.4-6.5				
6.3-6.4				
● 6.2-6.3				
6.1-6.2				
6.0-6.1				
5.9-6.0				

● :主成分分析実施箇所

→ :Mh降灰層準

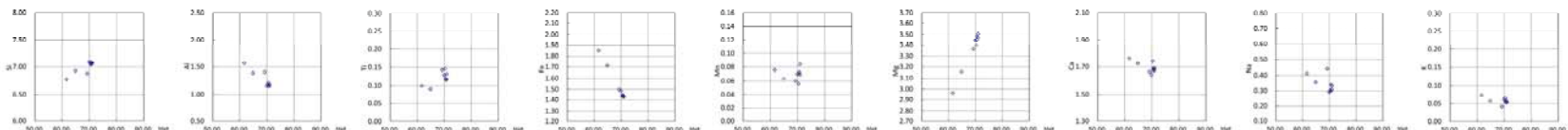
(試料番号)

7.3-7.4



Mg#70付近より
低い測定値を示す
普通角閃石も
認められる

6.0-6.5



Mg#70付近に
測定値が集中

連続分析は、同じ場所である測線C（濃集分析）[第7.4.4.193図(1)参照]で実施。

第7.4.4.193図(3) ⑤層下部テフラの分析結果(D-1トレンチ北西法面)(その3)

普通角閃石

測線D下(濃集分析)

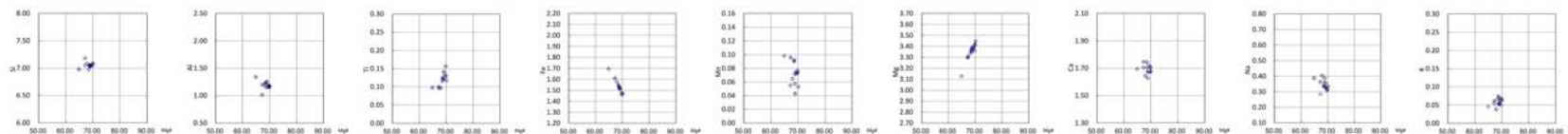
試料番号	総試料1g中の重鉱物含有個数			
	GHo		Cum	
	400	800	1.0	2.0
5.9-6.0				
5.8-5.9				
5.7-5.8				
5.6-5.7				
5.5-5.6				
5.4-5.5 →				
● 5.3-5.4				
● 5.2-5.3				
● 5.1-5.2				
5.0-5.1				

● :主成分分析実施箇所

→ :Mh降灰層準

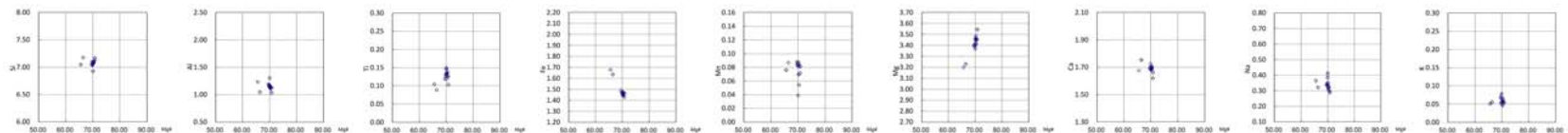
(試料番号)

5.3-5.4



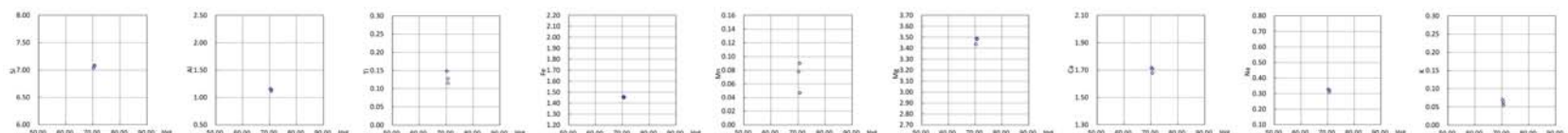
Mg#70付近より
低い測定値を示す
普通角閃石も
認められる
↑

5.2-5.3



↓
Mg#70付近に
測定値が集中

5.1-5.2



普通角閃石

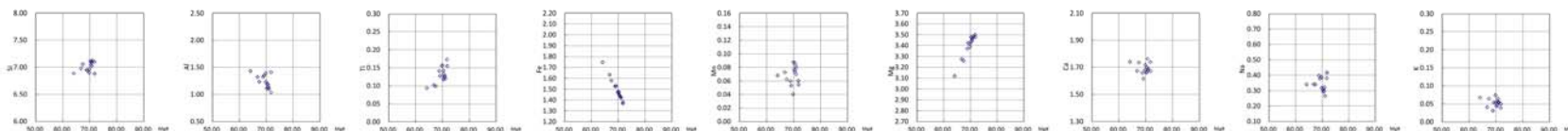
測線D下(通常分析)

試料番号	重鉍物の含有量 (/3000粒子)			
	GHo		Cum	
	3.0	6.0	0.1	0.2
● 5.4-5.5 →				
5.3-5.4				
5.2-5.3				
5.1-5.2				
5.0-5.1				
4.9-5.0				
4.8-4.9				
4.68-4.8				
4.6-4.68				
4.5-4.6				
4.43-4.5				
4.3-4.43				

● :主成分分析実施箇所

→ :Mh降灰層準

(試料番号)
Mg#70付近より
低い測定値を示す
普通角閃石も → 5.4-5.5
認められる
↑



↓
Mg#70付近に
測定値が集中

連続分析は、同じ場所である測線D下(濃集分析) [第7.4.4.193図(4)参照] で実施。

※試料番号は基本10cm間隔であるが、途中の層相境界を跨がないために不等間隔とした。

普通角閃石

測線E(濃集分析)

(試料番号)

試料番号	総試料1g中の重鉱物含有個数			
	GHo		Cum	
	150	300	2	4
8.8-8.9				
8.7-8.8				
8.6-8.7				
8.5-8.6				
● 8.4-8.5				
● 8.3-8.4				
● 8.2-8.3				
● 8.1-8.2				
● 8.0-8.1 →				
● 7.9-8.0				
● 7.8-7.9				
7.7-7.8				
7.6-7.7				
7.5-7.6				
7.4-7.5				

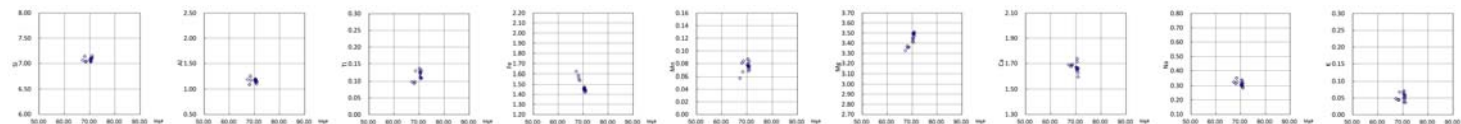
● :主成分分析実施箇所

→ :Mh降灰層準

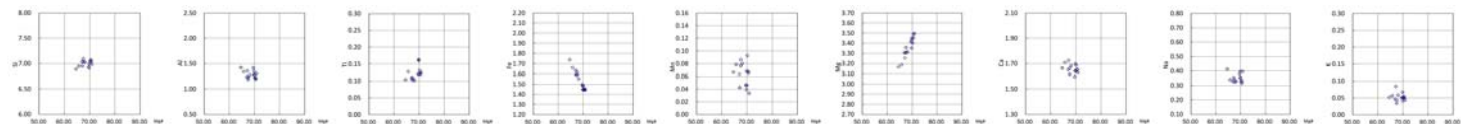
Mg#70付近より
低い測定値を示す
普通角閃石も
認められる
↑

↓
Mg#70付近に
測定値が集中

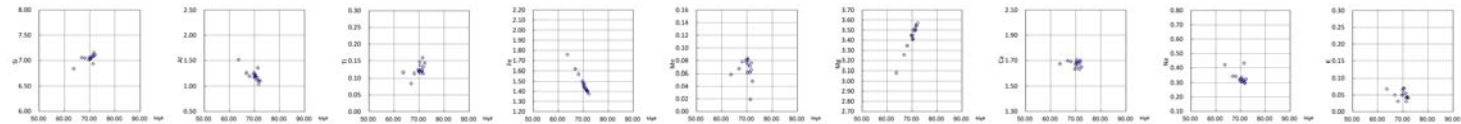
8.4-8.5



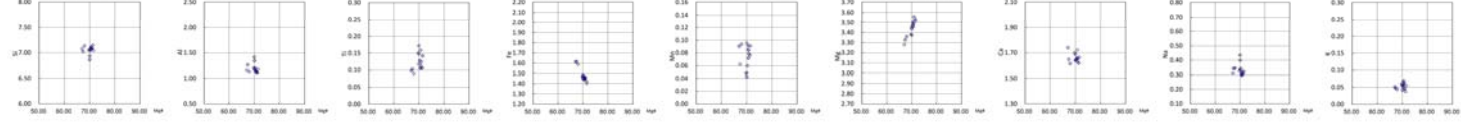
8.3-8.4



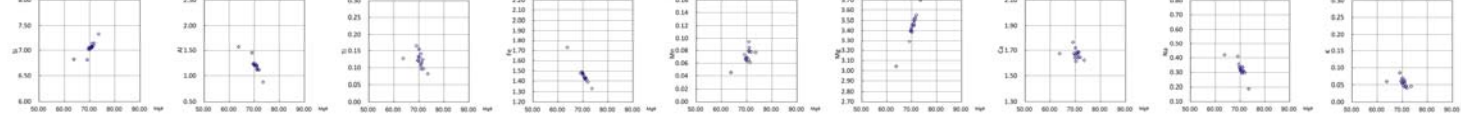
8.2-8.3



8.1-8.2



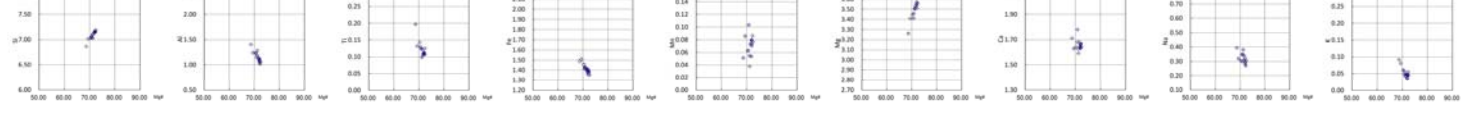
→ 8.0-8.1



7.9-8.0



7.8-7.9



普通角閃石

測線E(通常分析)

試料番号	重鉍物の含有量 (/3000粒子)			
	GHo		Cum	
	1.0	2.0	0.1	0.2
9.0-9.1				
8.9-9.0				
8.8-8.9				
8.7-8.8				
8.6-8.7				
● 8.5-8.6				
8.4-8.5				
8.3-8.4				
8.2-8.3				
8.1-8.2				
→ 8.0-8.1				
7.9-8.0				
7.8-7.9				

● :主成分分析実施箇所

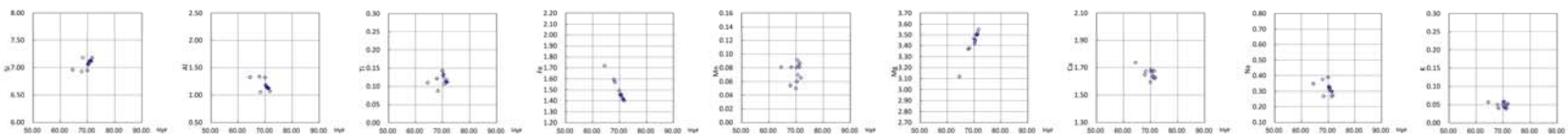
→ :Mh降灰層準

(試料番号)

Mg#70付近より
低い測定値を示す 8.5-8.6
普通角閃石も
認められる



Mg#70付近に
測定値が集中



連続分析は、同じ場所である測線E（濃集分析）[第7. 4. 4. 193図(6)参照]で実施。

普通角閃石

測線E' (通常分析)

試料番号	重鉍物の含有量 (/3000粒子)			
	GHo		Cum	
	3.0	6.0	0.1	0.2
5.9-6.0				
5.8-5.9				
5.66-5.8				
5.6-5.66				
5.5-5.6				
5.4-5.5				
5.3-5.4				
5.2-5.3				
● 5.1-5.2 →				
5.0-5.1				
4.9-5.0				
4.8-4.9				
4.7-4.8				
4.6-4.7				
4.5-4.6				
4.4-4.5				

● :主成分分析実施箇所

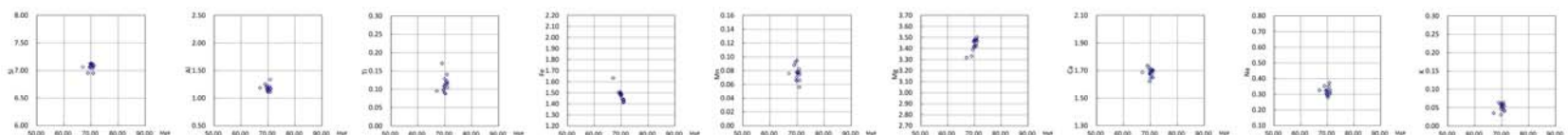
→ :Mh降灰層準

Mg#70付近より
低い測定値を示す
普通角閃石も
認められる



↓
Mg#70付近に
測定値が集中 → 5.1-5.2
(試料番号)

連続分析は、近傍の測線E (濃集分析) [第7.4.4.193図(6)参照]で実施。



※試料番号は基本10cm間隔であるが、途中の層相境界を跨がないために不等間隔とした。

普通角閃石

測線F（通常分析）

試料番号	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			
	GHo 3.0 6.0		Cum 0.1 0.2	
7.1-7.2				
7.0-7.1				
6.9-7.0				
6.8-6.9				
6.67-6.8				
6.6-6.67				
6.5-6.6				
6.4-6.5				
6.3-6.4				
6.2-6.3				
6.1-6.2				
6.0-6.1				
5.9-6.0				
5.8-5.9				
5.7-5.8				
5.6-5.7				
● 5.5-5.6				
5.4-5.5				
5.26-5.4 →				
5.2-5.26				
5.1-5.2				
5.0-5.1				

● :主成分分析実施箇所

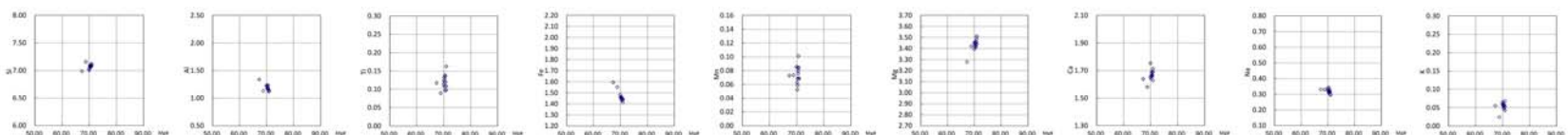
→ :Mh降灰層準

Mg#70付近より
低い測定値を示す
普通角閃石も
認められる



連続分析は、近傍の測線E（濃集分析）[第7.4.4.193図(6)参照]，測線G（濃集分析）[第7.4.4.193図(10)参照]で実施。

↓
Mg#70付近に
測定値が集中
(試料番号) 5.5-5.6



※試料番号は基本10cm間隔であるが，途中の層相境界を跨がないために不等間隔とした。

普通角閃石

測線G（濃集分析）

試料番号	総試料1g中の重鉱物含有個数			
	Gho		Cum	
	50	100	2	4
8-4-8-5				
8-3-8-4				
8-2-8-3				
8-1-8-2				
8-0-8-1				
7-9-8-0				
● 7-8-7-9				
● 7-7-7-8				
● 7-6-7-7				
● 7-5-7-6				

(試料番号)

→ 7.8-7.9

● :主成分分析実施箇所

→ :Mh降灰層準

Mg#70付近より
低い測定値を示す
普通角閃石も
認められる

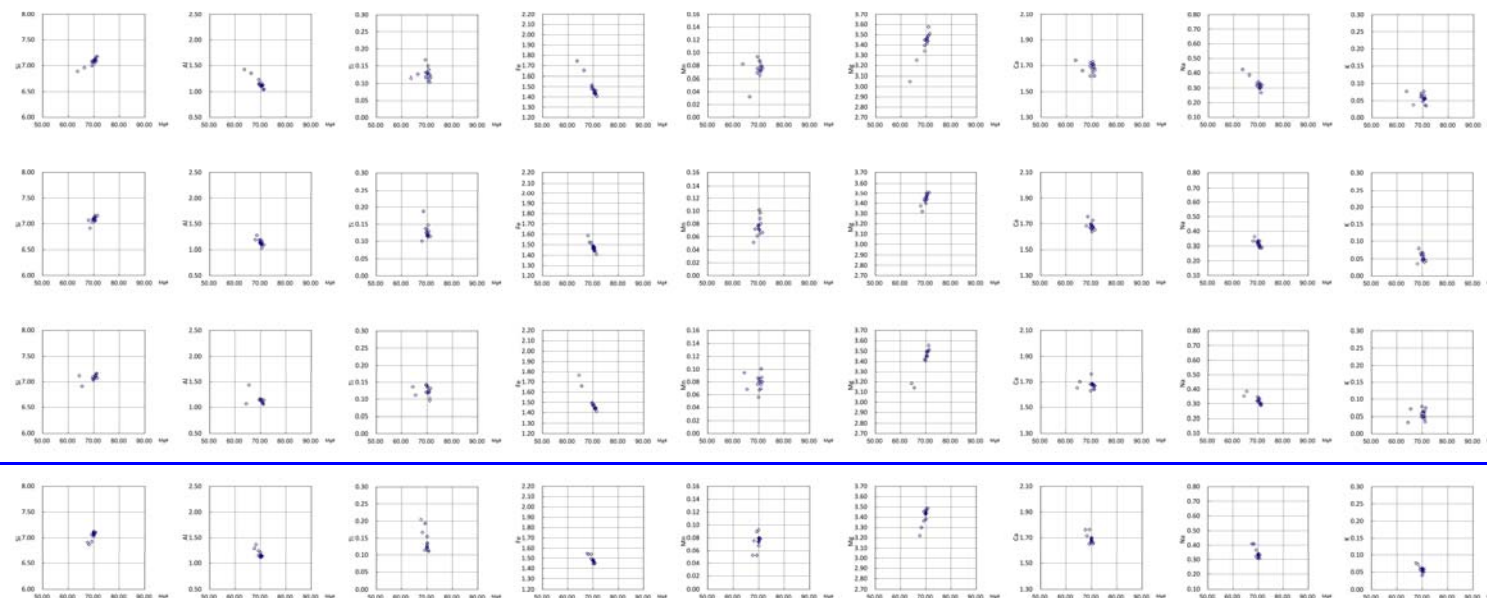


↓
Mg#70付近に
測定値が集中

7.7-7.8

7.6-7.7

7.5-7.6



普通角閃石

測線G（通常分析）

試料番号	重鉍物の含有量 (/3000粒子)			
	GHo		Cum	
	0.5	1.0	0.3	0.6
8.0-8.1				
7.9-8.0				
● 7.8-7.9 →				
7.7-7.8				
7.6-7.7				
7.5-7.6				
7.4-7.5				
7.3-7.4				
7.2-7.3				
7.1-7.2				
7.0-7.1				

● :主成分分析実施箇所

→ :Mh降灰層準

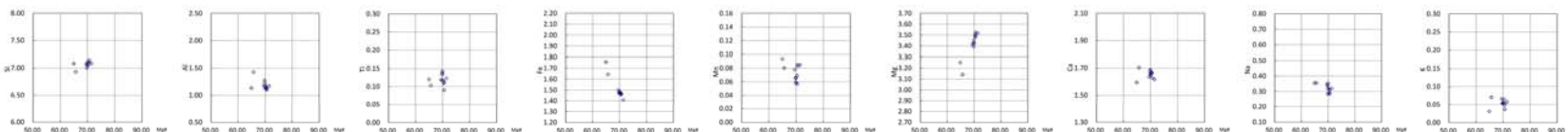
Mg#70付近より（試料番号）

低い測定値を示す

普通角閃石も
認められる → 7.8-7.9



↓
Mg#70付近に
測定値が集中



連続分析は、同じ場所である測線G（濃集分析） [第7.4.4.193図(10) 参照] で実施。

普通角閃石

測線I(濃集分析)

試料番号	総試料1g中の重鉱物含有個数	
	Gh0 400 800	Cum 0.3 0.6
3.8-3.9		
● 3.7-3.8		
● 3.6-3.7		
● 3.5-3.6		
● 3.4-3.5		
● 3.3-3.4		
● 3.2-3.3		
● 3.1-3.2		
● 3.0-3.1		
● 2.9-3.0		

● :主成分分析実施箇所

→ :Mh降灰層準

Mg#70付近に
測定値が集中

(試料番号)

3.7-3.8

3.6-3.7

3.5-3.6

3.4-3.5

3.3-3.4

3.2-3.3

3.1-3.2

3.0-3.1

→ 2.9-3.0



普通角閃石

測線I（通常分析）

試料番号	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			
	GHo		Cum	
	2.0	4.0	0.1	0.2
4.4-4.5				
4.3-4.4				
4.2-4.3				
4.1-4.2				
4.0-4.1				
3.9-4.0				
3.8-3.9				
3.7-3.8				
3.6-3.7				
3.5-3.6				
3.4-3.5				
3.3-3.4				
3.15-3.3				
3.07-3.15				
3.0-3.07				
● 2.9-3.0 →				
2.8-2.9				
2.7-2.8				
2.6-2.7				
2.5-2.6				
2.4-2.5				

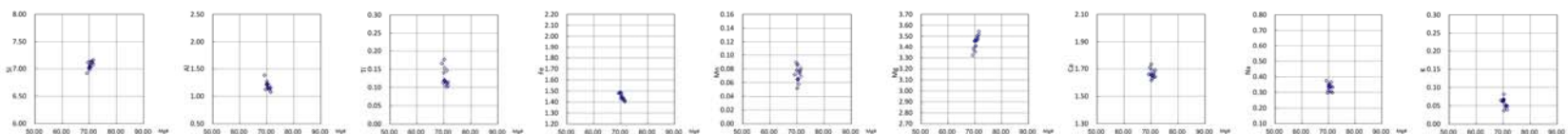
● :主成分分析実施箇所

→ :Mh降灰層準

連続分析は、同じ場所である測線 I（濃集分析）[第7.4.4.193図(12)参照]で実施。

(試料番号)

Mg#70付近に → 2.9-3.0
測定値が集中



※試料番号は基本10cm間隔であるが、途中の層相境界を跨がないために不等間隔とした。

普通角閃石

測線○（通常分析）

試料番号	重鉍物の含有量 (/3000粒子)			
	GHo		Cum	
	0.1	0.2	0.1	0.2
6.5-6.6				
6.4-6.5				
6.3-6.4				
6.2-6.3				
6.1-6.2				
6.0-6.1				
5.9-6.0				
5.8-5.9				
● 5.7-5.8 →				
5.6-5.7				
5.5-5.6				

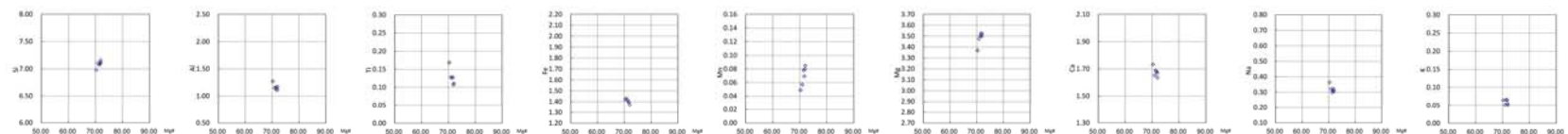
● :主成分分析実施箇所

→ :Mh降灰層準

連続分析は、近傍の測線 I（濃集分析）[第7. 4. 4. 193図(12) 参照]で実施。

(試料番号)

Mg#70付近に
測定値が集中 → 5.7-5.8



普通角閃石

測線J(濃集分析)

試料番号	総試料1g中の重鉱物含有個数			
	GHo		Cum	
	60	120	0.2	0.4
4-3-4.4				
● 4-2-4.3				
● 4-1-4.2				
● 4-0-4.1				
→ 3-9-4.0				
● 3-8-3.9				
● 3-7-3.8				
3-6-3.7				
3-5-3.6				
3-4-3.5				

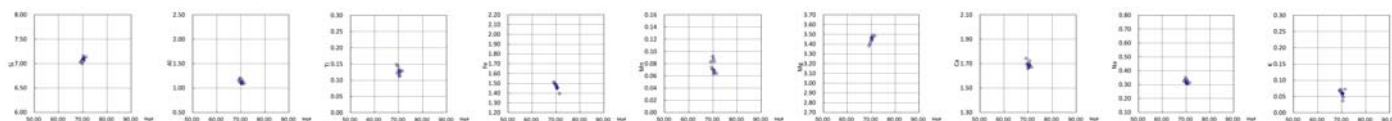
● :主成分分析実施箇所

→ :Mh降灰層準

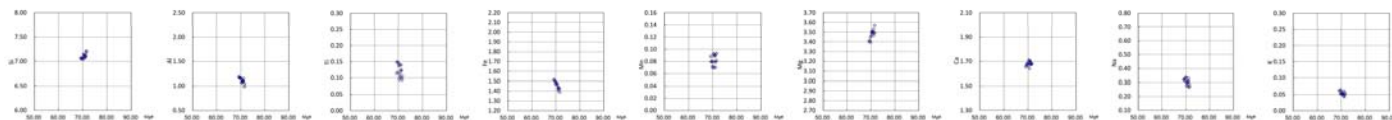
Mg#70付近に
測定値が集中

(試料番号)

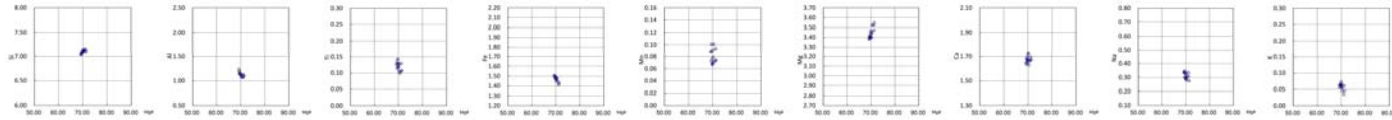
4.2-4.3



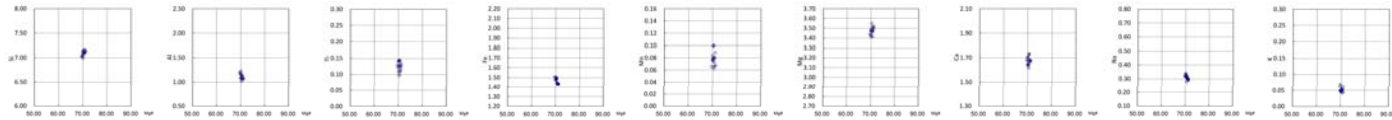
4.1-4.2



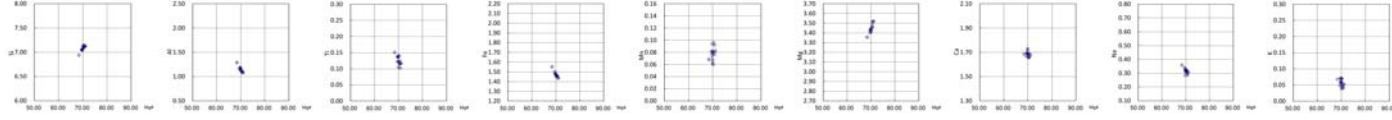
4.0-4.1



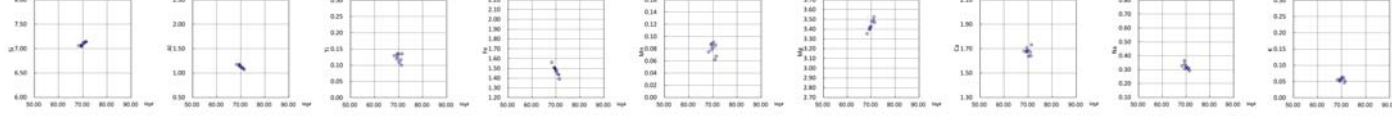
→ 3.9-4.0



3.8-3.9



3.7-3.8



普通角閃石

測線J' (通常分析)

試料番号	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			
	GHo		Cum	
	2.0	4.0	0.1	0.2
2.8-2.9				
2.7-2.8				
2.6-2.7				
2.5-2.6				
2.4-2.5				
2.3-2.4				
2.2-2.3				
2.1-2.2				
2.0-2.1				
1.9-2.0				
1.8-1.9				
1.7-1.8				
1.6-1.7				
1.5-1.6				
● 1.44-1.5 →				
1.3-1.44				
1.24-1.3				
1.1-1.24				
1.0-1.1				

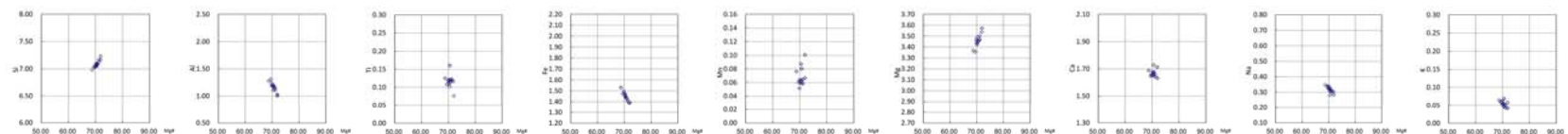
● :主成分分析実施箇所

→ :Mh降灰層準

連続分析は、同じ場所である測線 J (濃集分析) [第7. 4. 4. 193図(15) 参照] で実施。

(試料番号)

Mg#70付近に
測定値が集中 → 1.44-1.5



※試料番号は基本10cm間隔であるが、途中の層相境界を跨がないためあるいは礫を避けるために不等間隔とした。